

令和 5 年度
市民と語る会報告書

令和 6 年 3 月
庄 原 市 議 会

令和5年度 庄原市議会市民と語る会報告書 目次

1. 開催趣旨	1
2. 実施結果(開催日時、場所、参加者数等)	1
3. 意見交換テーマ	3
4. 次第	4
5. 班編成	5
6. テーマに対する懇談内容	
(1) 井戸端スタイル	5
(2) 自治振興区	18
7. 意見交換	
(1) 井戸端スタイル	39
(2) 自治振興区	40
8. その他(自由意見)	
(1) 井戸端スタイル	48
(2) 自治振興区	50
9. 議会に対する意見・要望	
(1) 井戸端スタイル	53
(2) 自治振興区	54
10. 執行者に対する意見・要望	
(1) 井戸端スタイル	58
(2) 自治振興区	59
11. 市民と語る会の検証結果	65

※本報告書における内容は、議員が構成する各班により取りまとめられた報告書に基づき作成しています

1. 開催趣旨

庄原市議会基本条例第5条第3項の規定に基づき、市民が議会の活動に参加できるような懇談会、議会報告会等を開催する。

令和3年度より、「議会報告会」を「市民と語る会」に名称変更し、市民との意見交換に重点を置いた内容で実施している。

また、令和5年度からは、広聴の取り組み強化のため、自治振興区単位での取り組みに加え、手上げ方式による「井戸端スタイル」を開始した。

2. 実施結果（開催日時、場所、参加者数等）

（1）井戸端スタイル

NO	申込者名	開催日	開催時間	会場	担当班	参加者数
1	宮内自治会	10月11日（水）	19：00～21：00	宮内集会所	1班	5人
2	庄原の人口問題を考える 民間会議 ひと部会	10月13日（金）	13：30～15：30	庄原市交通交流施設 地域交流室	4班	5人
3	東三区教育推進協議会	10月24日（火）	18：30～20：30	美湯ハイツ南集会所	3班	17人
4	国際ソロプチミスト庄原	10月25日（水）	13：30～15：00	庄原市民会館	2班	10人
5	庄原 MaaS 検討協議会	1月16日（火）	13：00～15：00	庄原商工会議所	4班	5人
6	やまびこ会	1月17日（水）	19：10～21：10	比和自治振興センター	3班	6人
7	堀田博幸（個人）	1月20日（土）	19：00～21：00	上谷コミュニティーセンター	2班	8人
8	庄原の人口問題を考える 民間会議 ひと部会	1月26日（金）	13：30～15：30	庄原市交通交流施設 地域交流室	1班	5人
9	庄原ライオンズクラブ	2月14日（水）	12：30～13：30	食彩館しょうばら ゆめさくら	2班	30人
合 計						91人

（2）自治振興区

NO	地域	地区	開催日	開催時間	会場	担当班	参加者数
1	庄原	庄原	11月8日（水）	19：00～21：00	庄原自治振興センター	1班	43人
2	庄原	高	11月8日（水）	19：00～21：00	高自治振興センター	2班	7人
3	庄原	本村	11月15日（水）	19：00～21：00	本村自治振興センター	3班	15人
4	庄原	峰田	11月7日（火）	19：00～21：00	峰田自治振興センター	4班	20人
5	庄原	敷信	11月2日（木）	19：00～21：00	敷信自治振興センター	1班	17人
6	庄原	東	11月6日（月）	19：00～21：00	東自治振興センター	2班	14人
7	庄原	山内	11月13日（月）	19：00～21：00	山内自治振興センター	3班	8人
8	庄原	北	11月8日（水）	19：00～21：00	北自治振興センター	4班	6人
9	西城	西城	11月14日（火）	19：00～21：00	西城自治振興センター	2班	29人
10	西城	八銚	11月13日（月）	19：00～21：00	八銚自治振興センター	1班	6人
11	東城	小奴可	11月10日（金）	19：00～21：00	小奴可自治振興センター	3班	11人

12	東城	八幡	11月2日(木)	19:00~21:00	八幡自治振興センター	4班	8人
13	東城	田森	11月15日(水)	19:00~21:00	田森自治振興センター	1班	22人
14	東城	東城	11月9日(木)	19:00~21:00	東城自治振興センター	2班	13人
15	東城	帝釈	11月7日(火)	19:00~21:00	帝釈自治振興センター	3班	21人
16	東城	久代	11月14日(火)	19:00~21:00	久代自治振興センター	4班	10人
17	東城	新坂	11月17日(金)	19:00~21:00	新坂自治振興センター	1班	14人
18	口和	口和	11月13日(月)	19:00~21:00	口和自治振興センター	2班	9人
19	高野	高野	11月9日(木)	19:00~21:00	下高自治振興センター	3班	15人
20	比和	比和	11月10日(金)	19:00~21:00	比和自治振興センター	4班	3人
21	総領	総領	11月6日(月)	18:30~20:30	総領自治振興センター	1班	27人
合 計							318人

(参考) 年度別開催状況

年度	期間	開催時間	会場数	参加者数	班数
平成23年度	平成23年7月1日~21日	19:00~21:00	22	488	8
平成24年度	平成24年7月3日~20日	19:00~21:00	21	369	8
平成25年度	平成25年7月3日~18日	19:00~21:00	21	328	5
平成26年度	平成26年7月3日~18日	19:00~21:00	21	430	5
平成27年度	平成27年7月3日~24日	19:00~21:00	22	445	7(内特設2)
平成28年度	平成28年7月11日~21日	19:00~21:00	24	一般 375 特設 415 合計 790	8(内特設3)
平成29年度	平成29年7月3日~8月29日	19:00~21:00	24	一般 427 特設 426 合計 853	8(内特設3)
平成30年度	平成30年7月3日~ 令和元年1月30日	19:00~21:00	20	一般 255 特設 293 合計 548	7(内特設2)
令和元年度	令和元年7月3日~19日	19:00~21:00	25	一般 329 特設 256 合計 585	7(内特設4)
令和2年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止				
令和3年度	令和3年11月1日~17日	19:00~21:00	21	振興区 382 団体 15 合計 397	4
令和4年度	令和4年11月1日~18日	19:00~21:00(18会場) 18:30~20:30(3会場) 13:30~15:30(1会場)	22	振興区 329 団体 6 合計 335	4

3. 意見交換テーマ

(1) 井戸端スタイル

NO	申込者名	テーマの内容
1	宮内自治会	・ これからの宮内町、私たちにできることは？
2	庄原の人口問題を考える 民間会議 ひと部会	・ 庄原の人口減少の実態と成果の出る取り組みについて
3	東三区教育推進協議会	・ 東三区地区の教育環境の充実
4	国際ソロプチミスト庄原	・ 人口減少対策について ・ 若者が子育てしやすい環境について ・ 教育現場及び医療現場の状況について
5	庄原 MaaS 検討協議会	・ これからの公共交通機関の進め方とまちづくりについて
6	やまびこ会	・ 比和地域の活性化 ・ 医療体制の充実 ・ 比和小学校、中学校を一貫校に ・ 比和地域の観光開発の充実
7	堀田博幸（個人）	・ 市が所有する土地の適正な管理について ・ 森林環境譲与税の使途について ・ 庄原市公契約条例について
8	庄原の人口問題を考える 民間会議 ひと部会	・ 庄原市の人口減少の実態と持続可能なまちづくりについて
9	庄原ライオンズクラブ	・ 市内経済活性化について（市内経済界・民間企業支援等） ・ 人材確保、育成、支援について（Uターン、Iターン・市職員・議員等） ・ 人口減少対策について ・ 有害鳥獣対策について ・ 地域公共交通について

(2) 自治振興区

NO	地域	地区	テーマの内容
1	庄原	庄原	・ 地域の教育環境の充実に向けて（永末小学校、児童クラブについて）
2	庄原	高	・ 芸備線の今後について
3	庄原	本村	・ 【共通テーマ①】 議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・ 【共通テーマ②】 人口減少社会における自治振興区活動の課題について
4	庄原	峰田	・ 人口減少社会における課題について ・ 有害鳥獣対策について
5	庄原	敷信	・ 【共通テーマ①】 議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・ 【共通テーマ②】 人口減少社会における自治振興区活動の課題について
6	庄原	東	・ 空き家や耕作放棄地がふえているなか、景観管理や獣害対策、市道管理への取り組みについて

7	庄原	山内	・【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について
8	庄原	北	・フリーテーマ
9	西城	西城	・西城紫水高校問題 ・西城市民病院問題 ・芸備線問題
10	西城	八銚	・【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について
11	東城	小奴可	・【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について
12	東城	八幡	・地域交通について
13	東城	田森	・有害鳥獣対策に対する支援の強化について ・人口減少に対する支援の強化について
14	東城	東城	・地域公共交通、特に東城～庄原間の移動手段について ・東城市街地に多世代が憩える公園を
15	東城	帝釈	・農林業の現状と課題
16	東城	久代	・有害鳥獣対策について ・人口減少と高齢化の中での子育て支援策について
17	東城	新坂	・【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について
18	口和	口和	・【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について
19	高野	高野	・地域交通と空き家対策
20	比和	比和	・【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について ・【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について
21	総領	総領	・人口減少社会における持続可能な生活基盤について（移動手段、買い物、働く場所等）

4. 次第

（自治振興区）

①受付（アンケート配布）

②開会（あいさつ）

③趣旨説明等

④前年度の意見・要望の対応状況報告

⑤意見交換及び懇談

テーマに関するもの及びその他自由意見（共通テーマ含む 9

⑥閉会（あいさつ） ※開会后 2 時間を目安

⑦アンケート回収

※井戸端スタイルについては、原則申込者の進行により実施

5. 班編成

班名	代表者 (班長)	構成員	担当（井戸端スタイル）	担当（自治振興区 21 会場）
1 班	近藤 久子	堀井 秀昭 福山 権二 藤木百合子 横路 政之	・ 宮内自治会 ・ 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会	庄原、敷信、八銚、田森、新坂、 総領（6 会場）
2 班	吉川 遂也	國利 知史 谷口 隆明 赤木 忠徳 徳永 泰臣	・ 国際ソロプチミスト庄原 ・ 堀田博幸（個人） ・ 庄原ライオンズクラブ	高、東、西城、東城、口和 （5 会場）
3 班	坂本 義明	桂藤 和夫 前田 智永 松本みのり 政野 太	・ 東三区教育推進協議会 ・ やまびこ会	本村、山内、小奴可、帝釈、 下高（5 会場）
4 班	坪田 朋人	五島 誠 宇江田豊彦 藤原 洋二 林 高正	・ 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会 ・ 庄原 MaaS 検討協議会	峰田、北、八幡、久代、比和 （5 会場）

6. テーマに対する懇談内容

（1）井戸端スタイル

NO. 1 宮内自治会

テーマ：これからの宮内町、私たちにできることは？

参加者意見	議員意見
高齢者が免許証返納後の、生活が不安である。バス便も少なく、通院や買い物など手段がない。巡回バス停までが遠く、徒歩が負担である。何か対応策はないか。	
高齢者が多く、人との繋がりが非常に弱くなりつつあると体感している。例えば、機械化による農業は、年配から教わらなくてもスマホで解決が可能となった。常会という組織が軽く思われ、家族葬の形式により、人が集まる機会も少なくなった。サロン活動は思ったほど人が集まらない。孤独死も 3 件発生している。人との接触を好まない人が増えているように感じる。	
市街地から 10 分の宮内がどうしてこんなに疲弊するのか。担い手である子どもや若者がいなくなっている。合併して 18 年経過したが、6 割が高齢者である。	
地域の中で、みんなの声を聴く時間が無くなってきた。独身者が多い。結婚推進活動が必要ではないか。水田や山林の荒廃が進んでいる。対策が必要。 宮内川の河川の管理道について、10 年以上専有化した状況がある。解決策はないか。価値ある遺跡の発掘については、内外にもっとアピールするべきである。	

人口が減っていくのは仕方がないことで、課題も多くあるが、「10年後こういった姿になったらいいね。」というものが無いのが不安である。ただ、そんな中でも、目標でもありテーマとしているのは「住み慣れた宮内で、地域の方々と関わり合いながら、安心して自分らしい暮らしをできるだけ長く続けたい」である。	
地域の頑張りを支える行政の動きや、データが欲しい。奈義町のように出生率が上がった町や海士町・雲南町のような取り組みが、庄原市では見えてこない。	奈義町に行ってみたが、まねのできる場所はないと思う。人口は現在 5 千人であるが、これ以上増えるとできないサービスがある。広い庄原市と比べ、中心部に人が集まっている。人口減少に特効薬はない。山内地区の取り組みは危機感からの始まりである。
山内の「てごおし隊」のようなものが宮内でも出来ないかなと思う。無償のボランティアでやってくれというのは難しい。	【山内自治振興区の取り組みについて、配布資料を基に福山議員より説明】 小学校の統廃合問題が発端で、人口、子どもの人数を増やそうといったところから、空き家対策に繋がり、てごおし隊などを中心に、地域マネージャー、自治振興区などが活動している。
	西城の八銚地域は人口減少率が一番高い地域で、地元に子どもを残そうという親は少ない。住んでいる人間がいかに豊かに暮らすかがポイントであると思う。
面積が広い、人口が少ない、庄原に本屋さんが無くなる、JR が厳しい等の課題がある。このような状態から庄原市は何をしているのかと思い、それが不安材料である。	
市民の大多数は、あきらめ感があるのではないかな。	
小学生に九日市の歴史を語り、郷土愛を伝え、将来庄原に帰ってくるよう話している。学校において、郷土愛が深まる授業をしてほしい。	高校生と以前懇談したが、子ども達は庄原に残りたいという声が多かったように思う。
民意をもっと聞いてほしい。諦め感が強い。	
庄原出身者に声をかけ企業を呼び込むような、U ターンに力を入れてほしい。	
	地元の皆さんが何をしたいのか議論を深めてほしい。この会に女性2名でも参加されると違うものがみえてくるのではないかな。サロンも楽しいと続く。世話役も楽しんでやることが大前提。田舎は田舎良さがある。良いところも見つけていくことも大切であると思う。
庄原に良いところがたくさんあっても、上手にアピールできてなく、多くの方に知っていただく機会が少ない。	
将来の庄原市を市民に示して欲しい。町づくりの基本は、主役は市民であり、行政との情報の共有が重要である。住民と行政が一緒に作り上げていくことがオール庄原であると思う。	

NO. 2 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

テーマ：庄原の人口減少の実態と成果の出る取り組みについて

参加者意見	議員意見
身近な庄原市のことが分からない。	
市民は良くしようと考えているが、行政との乖離がある。	
庄原地域の人たちだけでコンパクトに固めて、取り組みをスタートしていくのもアリでは？	
人口減少は全国の話で、みんなあきらめているように感じる。あきらめるのではなく、望みがあることが見えるようにしてほしい。	市民の思いが実現するような庄原市にしていきたい。人口が減っても生活に困らない街づくりをしていかないといけない。持続可能な庄原であってほしい。
人口が少なくても、市民一人一人が自分の立ち位置を決定でき、幸せな人生が送れば良いと考える。	
人口減少や次の世代について話をするとき、若い人と話ができる場や人を育成していく場を設けているのか？	議会では、誰でも申し込めるよう、今年度新しくこの井戸端スタイルを企画した。
若い人は懐疑的、否定的、意見が出ない等言われるが、そうしてきたのは大人。時間がかかることを前提でやっていかないと変わっていかない。	
子育て支援にお金を使うことが一番効果があるのでは？	若い者に夢を与えなければならない。
庄原市がより良い意味で内向な施策をした方がよい。今ここにいる市民が幸せに暮らしていけるところから、実施すべき。	

NO. 3 東三区教育推進協議会

テーマ：東三区地区の教育環境の充実

参加者意見	議員意見
学校の統合は見送られたが、人数が増えたからどう対応するのかについて話は無い。	学校統合について、東城の栗田では、地域で署名などされてきたが、保護者の中では、人数が少なくなっていることに不安も大きくなっている。保護者が声を上げにくい等の課題もあり、未だに解決できない。教育委員会がこの夏に初めて学校に説明に行った。
永末の保育所はなくていい。との回答。	
永末小学校は予備教室なし。着替えの部屋もなく順番で行っており、更衣室もとても狭い。現在の児童数は96人で100人近くいる。今後は減っていくとの話ばかりで、増えることが考えられていない。3月、児童クラブ20人規模に60人希望があった。4月からのことに対して、話があったのは3月。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
休所中の永末保育所を緊急的措置で児童クラブに使わせてもらっている。保育園児の入所希望者が出たら保育所が優先との話だけされる。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。

保育所はトイレも流しも小さい子向けで、とても小さい。グラウンドに外灯がない。保育所までお迎えに行くにも、雪の日はグラウンドがグシャグシャ。	放課後児童クラブの拡充等、教育民生常任委員会で協議中。グラウンドの外灯は児童福祉課で対応済み。グラウンドに自家用車で入り、近くまで迎えに行けるよう対応された。
増えているところの子どもを大事にしたい。と訴えてもらったが変化が見えない。	要望を地域・保護者でまとめて提出いただき、教育民生常任委員会で協議する。
やっと今年洋式トイレに改修したが、トイレの数は増えない。1階は児童 60 人に対し、女子トイレ 3 つ。手洗い 3 つ。それ以外の対応も未定。	トイレ洋式化に伴い、4 基増設された。手洗いは自動水洗化の際に教育総務課が業者に増設を依頼したが、スペースの問題があり実現できていない。
待機室もない。ランチルームも何もない。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
増築するのか？	昨年、永末小学校を教育民生常任委員会で見学した。規模が大きくなりつつある学校、小さくなりつつある学校、それぞれ見学した。体育館も暑い、狭い。委員会でも問題意識は持っている。僻地保育所、児童クラブも見学させてもらった。
僻地保育所をなくさなければ、改修はできない。保育所をなくせば児童クラブに出来る。と言われる。今から児童クラブは低学年が増えてくる。高学年は、児童クラブの環境を考え、家で留守番をしている。僻地保育所でなくなれば保育所に行かせられるが、そこが外してもらえない。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
児童クラブは登録者 71 人。実際に使っているのは 40 人ほどだが、環境が整っていないため、行きたがらない。利用しないのではなく、行かせられないから行っていない。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
6 年生 12 人で一番多かった。今が人数のピークというが、良いところと思って、新たに移り住んで来てくれている。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
住民基本台帳を見て、(児童数の推計を)決めるのがおかしい。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
小学校があると人が移ってくる。活性化のために小学校は必要。永末地域に 1 校しかない。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
100 人からいる子が庄原小学校に行けるのか？今でもパンパン。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
何でもかんでも協力しなさいと言われるのに怒り。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
残しますといわれるのに、体育館は穴が開くほど痛みがあるが手入れもしない。	教育民生常任委員会で協議、体育館は教育総務課がへこみ改修を予定している。
何をベースに人数を出しているか？	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
子どもがいなくなると地域はさびれる。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
残る学校がボロボロで、早くに無くした(廃校にした)学校が新しい。上谷は、建て替えてから一年で廃校に。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
体育館の床は 1 回ワックスをかけただけで、棘が立つ。設備も古い。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
複式学級を想定した小さい教室のため、1 教室の面積も狭い。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。

手洗い場が足りず、家庭科室で手を洗っている現状。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
インフル蔓延もしやすい。廊下も狭い。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
教室が狭いため、参観日は親同士が交代で参観する。発表会も分散。全員で見られない。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
アンケート調査をしたが、地域の80%は保育所に残って欲しいと思っている。美湯ハイツからなかなか回答が来ない。やっときた回答も永末僻地保育所には行かせたくないという。3歳からしか見てもらえない「僻地保育所」だから。	永末の優先順位は高いと考える。
	保護者の方がどんどん意見を言われるのがいい。
保育所に関するアンケート。79人の子どもが、11の保育所に行っていた。児童福祉課は保護者の仕事の都合と言う。	教育民生常任委員会にて協議・確認。
59世帯 57%は3歳以下が預かってもらえないから預けられなかった。と回答	教育民生常任委員会にて協議・確認。
	川北では、保護者会が地域で議論。最後は19人で統合した。
普通の保育所にする障壁は何か？	教育民生常任委員会にて協議・確認。
永末保育所に通えれば、小学校教育にスムーズに入れる。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
三日市保育所が人気。庄原保育所は過密。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
バスで通えばさらにインフルエンザも増える。	今後の議員・議会活動の参考とさせていただく。
育成会…子ども会70人以上いるけれど、集まる場所もない。みんなで何かやろうとおもってもできない。どんどん人が増えてきている。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
美湯ハイツだけで子ども78人。学校を改築しても、新たな人が入ってきており、現状の施設では対応が難しい。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
	合併時 320人以上生まれていた子どもが、昨年150人、今年は120人いかない状況の中、永末の状況は他に例がない。
地域として多くの要望は持っているが、それらをまとめる努力がしていると感じている。	議会としても子どもたちの環境を最優先にしっかり取り組んでいく。

NO. 4 国際ソロプチミスト庄原

テーマ１：人口減少対策について

参加者意見	議員意見
庄原市ほど良い町はないと思うが、人口はどんどん少なくなる一方である。子供たちに帰ってきてほしい、移住してきてほしいと思っているが、移住対策はどうか。	市でも移住対策を行っているが、住民自ら対策を行っている自治振興区もある。
	山内自治振興区では移住対策に力を入れている。「てごおし隊」を組織し３年間で 60 人以上の移住者を呼び込んでいる。この活動が注目され、他の自治振興区からも視察に来ている。実際に空き家整理を行う自治振興区も出てきており、徐々に広がりつつある。この活動が全市に広がればよいと感じる。
	働ける世代が帰ってくる、移住してくることが必要である。そのためには働ける環境を整える必要がある。今はそこに居なくても働ける（リモート等）時代になっているので、そういう人を取り込んでいくことが大切である。
	先日「てごおし隊」の活動でリターンして帰ってきた人が起業した。市として、このようにリターンやＩターンで移住してきた人の新しいチャレンジを支援していくことが必要と感じる。
	子供たちに庄原に帰ってきてもらうためには、まずは私たち大人が庄原に誇りを持ち、庄原の良さを知り、子供たちに伝えていくことが必要と感じる。大人が誇りを持ってない町には子供たちは帰ってこようという気にはならないと思う。

テーマ２：若者が子育てしやすい環境について

参加者意見	議員意見
庄原市の子育て環境の現状はどうか。	庄原市の子育て施策は他市町に比べて負けていない。
	制度的には手厚いけれど、暮らしていきやすい町づくりが必要である。
	明石市の子育て施策は徹底的に子供に関する予算をつけている。高齢者などから不満の声があるのも事実だが、何かに特化した政策を行うことも重要と考える。
	奈義町も子育てしやすい町として有名だが、「ここだったら子育てができる、ここで子育てがしたいよね」と思える町である。
視察に行って子育て政策などを勉強しているのはよく理解できるが、これを庄原市でどのように実現していくのかが重要であると思う。実際のどの程度実現できるのか。	子育て支援については、本来国として取り組むべき問題としての部分が大きい、市の問題としてどのように組み込んでいくのかは考えなければならない。
	小さな事業では実現できることがあるが、大きな施策を議員として実現していくのはなかなか難しい。視察で学んだことを担当課と話をし、一般質問や会派予算要望などで執行者に届けていく。

テーマ３：教育現場及び医療現場の状況について

参加者意見	議員意見
庄原市の教育現場の状況について教えてほしい。	教員が少なくなっており、美術などの授業が減っている。美術などの授業が少なくなると、この町の彩もなくなっていくのではないかな。
	教育現場にもっとお金を使うべきである。日本は世界の中でも教育に使うお金が少ない。 国がどのように関与していくのが重要である。庄原市も一般財源の最後に教育費となっているがそれではいけない。小中高の教員を増やしていかなければならない。
小学校のPTAなど若い世代との意見交換は行っているのか。住民がもっと自分たちの意見を直接言える機会が必要であると思う。また住民の方から動くことも必要だと感じる。	本年度から始めたこの井戸端スタイルの市民と語る会の別会場で、学校の保護者や若い方、女性の方の意見を直接聞くことができた。
最近是不登校の児童や生徒が増えているがその理由も分からないことが多いと聞く。不登校をどのように考えているのか。社会に出てこの子たちが生活していけるのか不安になる。もっと危機感をもって救いの手を大人たちが差し伸べてやらなければならないと思う。	不登校の問題は教育民生常任委員会でも重要視して取り上げている。一人一人が行けなくなった原因は違うので対応するのが難しいことがある。学校に行かなくても学べる環境を広島県が整えようとしている。
学校統廃合の問題はどのようになっているのか	現在は、学校統廃合の問題はあまり話題に上がらなくなっているが、教育委員会としては統廃合をしないと言っているわけではない。
	山内小学校では地域ぐるみの移住対策によって児童数が増えたが、今後生徒数を維持していくことが大切であるが容易ではない。今後も継続して児童数を増やすことが必要である。
	少人数学級、複式学級解消のための学校統廃合計画である。小奴可小学校では、今でも遠くに住む子供たちは朝早く起きて学校に通っているが、東城小学校と統合してしまうと、何時に起きなければならないのか。冬などは暗いうちから起きて学校に行かなければならない。特に低学年には負担が大きすぎる。
	個人的には複式学級でも良い。教育長は少人数学級では切磋琢磨できなくなると言うが、今の時代は切磋琢磨する時代ではない。一般社会は小さな単位が協力し合って成り立っているものである。大人数の学校でなじめない子は良いが、なじめない子は不登校になる恐れがある。
	教育は人数ではない。
	広大付属では複式学級の人気が高い。帝釈小学校では広大付属と連携していた。複式の良さを活かしていくことが庄原には合っているのではないかと感じる。

医療の状況について	無医地区に住んでいるが移動診療車が来てくれるので何とか対応できている。
	医者がいるということは安心感に繋がる。西城病院は良い活動をしている。国はコンパクトシティを進めようとしており、将来的にはコンパクトシティでの医療体制となっていくのではないかと。
	西城病院は頑張っておられる。日赤と西城病院の連携が進んでおり、医師や看護師の連携も強化されている。このことが住民の安心感に繋がっている。

NO. 5 庄原 MaaS 検討協議会

テーマ：これからの公共交通機関の進め方とまちづくりについて

参加者意見	議員意見
庄原市民の貯蓄状況を把握し、同一市内での経済循環を促進するための対策を検討してほしい。 市民のお金が外部に流出する構図に対して、市が対応してほしい。	財政制約がある中で、市の予算確保や市の積極的な関与が難しい現状だが、連携を強化して解決策を模索したい。
公共事業においても地域内企業を優先し、地域経済を支える施策を推進してほしい。 公共交通の改善が地域の健康に与える影響や、市外への流出を防ぐための具体的な取り組みを期待する。	地域公共交通の連携を促進し、健康と経済の結びつきを強化したい。市外からの利用者獲得に向けて観光との連携も進めたい。
市役所の課題解決についてしっかりと取り組み、さらに市民の声が迅速に反映される仕組みを構築してほしい。 課題が分かっているにもかかわらず、市が十分に取り組んでいないと感じられる。	市の行政サービスの向上や市民の声の対応についても変革を検討する必要があり、予算の確保が課題です。市の職員不足や対応についても含め、課題解決に向けて協力していきたい。

NO. 6 やまびこ会

テーマ 1：比和地域の活性化

参加者意見	議員意見
医療、学校、観光、全てにおいて他地域に比べて不公平感を感じている。高速道路も無く、働く所も無く、不便。何も無いところに子どもたちは帰って来ない。夢が無い。比和町基金もどこに使ったのか分からない。	他の町も同じく医療も学校も旧町の仕組みが即していかなくなると感じている。庄原市は適正に比和財産区のお金を比和に使っていると思っている。

テーマ２：医療体制の充実

参加者意見	議員意見
比和だけ診療所が無い。個人医院も無くなり移動診療してもらっているが、診療時間は午前のみ、水・木・金曜日は診療がない。すぐにも診療所を始めて欲しい。難しいのならば交通手段のない高齢者の送迎をして欲しい。法律で地域の交通事業者では送迎サービスが出来ないと言われた。	西城病院の移動診療が順調と聞いており、診療時間外の送迎サービスについては執行者と研究したい。
比和だけ個人負担で歯科医院をしている。年齢的にも財政的にもいつまで経営できるか分からず不安。他の旧町歯科診療所は公的負担で機器の更新等しているので、個人医院にも財政補助や人員確保してもらわないと医療が継続出来ない。医師不足の対策は庄原市にはあるのか。	医師や看護師の育成に奨学金制度がある。庄原に帰って来て働くことで返還免除もしている。同じ税金を払い、他の旧町との不公平感を感じるのも理解出来る。

テーマ３：比和小学校、中学校を一貫校に

参加者意見	議員意見
比和中学校が廃校になるのではとされている。中学校までは地域の学校に通えるよう、保小中一貫校にしてあればやっていけるのではないかと。庄原中に行っても通学の負担があり、クラブ活動も出来ないのでは。三次受験する方もいて、学校の選択が出来れば良いと思う。	どうかたちが良いのか子ども、保護者、地域で考えていかなければならない。子どもたちが違う学校に行っていても、地域で運動会をしているところがあり、とても良い運動会。やまびこ会も市民団体登録して、そういった活動をしてはどうかと提案したい。
山内は廃校危機を空き家活用して移住を増やし廃校を防いだと聞いた。空き地や空き家がたくさんある。報道で５年住めば土地も家もあがる地域があった。貸したり売ったりするのが行政の仕事ではないか。	山内は自治振興区と住民で空き家を整理して頑張っており、移住者も増えた。住める状態のうちに空き家バンク登録して入ってもらえれば良いが、何年も経過すると家が傷む。比和も自治振興区や支所と協力して頑張って頂きたい。

テーマ４：比和地域の観光開発の充実

参加者意見	議員意見
比婆牛発祥の地で道の駅や加工所を作りたいと何度も言ってきたが、出来ない。まちなか活性化も止まった。地域おこし協力隊を呼んで比和を活性化して欲しいというのも動いてもらえない。支所や市は比和が消滅するのを待っているのか。	比和は夢街道ルネサンスに認定された。補助や支援もあるので、支所や自治振興区と一緒に色々やって欲しいと思うし、そこに地域おこし協力隊を紐づけていけばと可能性を感じている。
あけぼの荘が飲食や宿泊出来て、浴槽がもっと大きい施設であれば良かったと思う。吾妻山ロジックも空いたまま。合併基本計画は比和だけ止まっているのか。	あけぼの荘は一度計画が止まったが当時議会も動き、今のものが出来た。吾妻山は購入しようとしていた業者がいたが、解体費用が原因で断念したと聞いた。合併基本計画は一般質問で進捗を聞いたところで、途中削除されたものがあるため進捗は進んでいるということだった。かさべるでも修繕され、有名な大学の利用も聞いているので吾妻山も含めてしっかり活用してもらいたい。

NO. 7 堀田博幸（個人）

テーマ１：市が所有する土地の適正な管理について、テーマ２：森林環境譲与税の使途について

参加者意見	議員意見
市が所有する土地の草刈りを個人がお金を出して草刈り依頼をされている方がいる。地域での草刈り作業に出られない高齢の方が気を使って自分でお金を支払って、草刈りを依頼している状況。市役所に言っても何もなかった。市の管理する土地の管理は市がやるのが筋ではないのか。	市道の草刈りに関しては一般質問でも質問したが、答弁では、草刈り作業を業者に委託しても人手不足で草刈りができない状況にあるとのことだった。市も要望は聞きたいが人もお金もないのが現状である。
庄原市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の中に、管理する土地又は建物の清潔を保つように努めなければならないと明記されているので市が行うべきと市に言いたい。また、草が茂っているところは猪が掘り返している。環境基本計画には猪のことも書いてある。住民から見ただけで書いてあるだけのように見えてしまう。	自治振興区で実施する地域の草刈りには、１メートルあたり 12 円の補助金が出ている。業者に委託すると１メートル300 円以上である。すべてを業者に委託すれば経費的にも人力的にも非常に厳しくなる。今後は何人かでグループを作れば草刈り作業の委託を受けられるようになる。費用も１メートルあたり 50 円程度にはなる。草刈り作業のグループを作ることも考えても良いのではないかと。
森林環境譲与税を防草作業などに使うことができないのか。森林環境譲与税はある程度自由度があると聞いた。都会では森林の啓発活動などに使っているとも聞く。	森林環境譲与税は使用用途が決められており、その使途は公開することが義務付けられている。植林後の草刈りには使えるが、一般的な道路周辺の草刈り作業には使えないと認識している。
上谷には不老仙があり全国からお客様がお越しになる、不老仙の管理という事で整備できないか。	一般質問で丘陵公園までの市道の草刈りの件で一般質問した。丘陵公園は全国からお客様がお越しになる場所であるので庄原の顔となる道路であり、そのような場所は庄原市の印象につながるのが必要な考え方だと感じる。

テーマ３：庄原市公契約条例について

参加者意見	議員意見
上谷コミュニティーセンターは自治会が管理しているが、報告書に人件費の項目が入っていないのは何故なのか。指定管理料は変えなくてもよいので報告書の中に人件費の項目を入れてほしい。公契約条例に則ってきちんとやるべきではないのか。	市内にあるコミュニティーセンターは主に集会所や避難所としての活用があり、地元の要望が大きかったから残しているので管理はお願いしますとのスタンス。公共の不動産は今後減らす計画である。地元移管を進め、引き受けられなければ取り壊す方向になる可能性はあるが直ぐの話ではない。
	もう少し管理費用部分の予算をつけるように提案はしている。
	報告書の人件費の項目を増やす又は清算項目の見直しという事になると、ほかの指定管理全てに関係してくることなので総務常任委員会で議論していくことになると思う。
	地元移管となるとさらに地元負担が増えてくる。
コミュニティーセンターは生涯学習施設なので生涯学習事業をやるように言われる。予算の関係で予算オーバーになることも実際に起こっている。	建物は教育委員会の管轄だが、やっていることは自治振興区活動なので本村自治振興区が自治定住課に相談してみるのも良いかもしれない。

	本村自治振興区の事業の一環として、上谷の生涯活動事業を行ってもらうのも方法の一つではないか。
人件費の項目は、地域のために一生懸命働いている人の評価の指標となるものである。そのような人を評価してあげてほしい。	金額を上げろという事ではなく、評価をしてあげてほしいという事であれば別な形で評価してあげる方法があると思う。実績をいかに評価してあげるか、認めてあげることは大切である。

NO. 8 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

テーマ：庄原市の人口減少の実態と持続可能なまちづくりについて

参加者意見	議員意見
本日は、若い人たちの意見を聞いて欲しい。合併して 19 年が経過した現在、人口の減少率が加速している。合併時は 44,000 人の人口が、現在は 31,000 人台になっている。 2050 年代には 10,000 人台となる予測もある。17,000 人規模になれば、自治体の体をなさないのではないかな。 早くから危機感を持っている町、安心して住み育てられる町は、育児対策を徹底しており、成果の出ているまちづくりとなっている。	
子育てに関して言えば、民生委員には主任児童委員がいるが、児童福祉の議論はできていない。 出生率も大事だが、庄原の魅力は何かを発信し、楽しめるまちづくりが出来ているのだろうかそこが出来れば、若者は出て行かないのではないかな。	
福島から嫁いで来た。現在は 1 歳の双子の育児をしている。出産までは、行政から気にかけてもらっていることは感じていたが、保育所に入る時点で待機児童となりショックを受けた。 生まれた時点から 1 年経過しているのに、高と小奴可であれば入所が可能と言われた。 現在、高保育所に往復 1 時間かけて通っている。保育所では良くして頂いているが、親としては園児数が少ないところよりも、多いところに通わせたい思いもある。運営が民間委託になっているため、保育士の移動が困難であるのか。子育て世代にとって、保育所に子どもが入所できるかどうかは死活問題である。	保育所の指定管理については、様々な議論があったが、最終的には議会は同意した。直営が望ましいことは理解できる。 年度中途での保育士の確保は難しいこともあり、新年度からは入所可能と聞いている。 他市に住む娘からは、庄原の子育て支援は「ええよねえ」と言われている。 庄原市の合計特殊出生率は県内でもトップクラスである。妊娠から出産までのサポート体制は整っている。
市内の中小企業は人材が戻ってくるのを待っている。望む保育所に入所できないことは家族にとっても企業にとってもマイナス面が大きいと思う。	

永末小学校は 100 人を超える規模になっている。放課後児童クラブもいっぱいの状況である。 参観日に行ったが、一人っ子はほぼいない。2 人～3 人。4 人、5 人兄弟の子どももいる。庄原自治振興区と要望書を出している。地域の方々に非常に良くして頂いている。	議会としては、内容を精査しての議論となる。
	ある自治振興区では、最近はまちづくりの話が出ない。役員のなり手がいない。まちづくりの情熱も下降気味である。若い人がまちづくりにあまり関わりたくない気風があると同った。
まずは、情報の共有が大切であり。これを疎かにすれば市民は無関心になる。 今は、上から目線の行政ではないか。若者たちが住みたい魅力が欲しい。	持続可能な庄原市をつくっていくことが大切であると思う。
自分は、安心して働ける職場を作ろうと思っている。長男でもあるし、林業を身につけて町に恩返しできると思った。	
個々に頑張っている人はいる。これをオール庄原でつなげる必要がある。	
行政が主導してやって欲しい。	
5 月から西城町のまちづくりに関わっている。行政と住民とが協働し、住民パワーが主体で地域の衰退をいかに食い止めるか、住民のパワーをどう育てるのか。大きな課題である。 西城紫水高校の問題もあるが、地域だけでは収まらない問題である。	

NO. 9 庄原ライオンズクラブ

テーマ 1：市内経済活性化について（市内経済界・民間企業支援等）

参加者意見	議員意見
企業の人材確保について、募集をかけても応募がほとんどない。バスの運転手など不足している。市役所も含めて採用案内を合同で頻繁に開けないか。	中途採用枠を拡充する方法や、DX 化を進めて仕事の内容を見直すことも必要になってくる。
働き人たちの購買力を上げること（賃上げ）が経済活性化の元。そのための補助など環境整備が必要。	
事業支援で優秀な人材確保のため、会社見学や仕事内容の公開、企業とのマッチングを市としてやっていただきたい。	
庄原市の産品をブランド化するためにはどのようにしていけばよいか。	ブランドづくりとは、基本的には企業の商品力の強化が一番重要と考える。安定した良い商品を作り続けることが基本となって、庄原市内の同業他社と一緒に、業界を盛り上げていくことで地域ブランドが形成されていくと思う。

テーマ２：人材確保、育成、支援について（Uターン、Iターン・市職員・議員等）

参加者意見	議員意見
Uターン・Iターン者への支援の強化が必要ではないか。例えば、住宅改修への思い切った支援や何年か住めば土地と住宅を譲渡するなど。	
学校教育の段階で、庄原市の歴史や良さなど学ぶことが少ない。奨学金の免除など、地元に戻ってこられる支援策を考えるべき。	
大卒の地元就職支援策について考えはあるか。	庄原市にとって、県立広島大学庄原キャンパスの大学生の存在は大きい。少しでも庄原に残ってもらうような対策が必要と考える。例えば、庄原に就職して庄原に住めば、年間 10 万円の家賃補助を出すとか、学生や卒業生が起業する場合には、優遇措置を実施するとか。また、学生が住みやすい環境を整備することで、庄原に住んで良かったと思ってもらわなければならないと感じる。
市職員は職場を頻繁に変わり、専門性の習得や専門技術を発揮する前にやりがいを失い、退職しているのではないか。専門的な知識やノウハウを持った職員を養成することが市民にとって利益になる。	現在、どこの自治体でも議論はある。カリスマ公務員と言われるような人材を要している自治体もある。ある分野においては、そのような人材育成も必要と考える。ジョブローテーションをするのは、ある程度の経験を積ませることで、問題解決の考え方が広がる場合もあるし、不正防止にもなる。
毎年多くの職員が中途退職している。市長一人に責任を負わせるのではなく、副市長や部長が対策を講じるべきである。	
議員のなり手不足について、議員定数を議論するのではなく、議員報酬を上げることで解決を図れるのではないか。	

テーマ３：人口減少対策について

参加者意見	議員意見
人口減少は避けられない。その過程で、コンパクトなまちづくりが避けられないのではないか。冬季の高齢者住宅のような取り組みでなく。	
人口減少のスピードを鈍化させていく対策について、山内自治振興区の活動を参考にしようか。	山内地区では地域ぐるみで移住対策に力を入れている。空き家の整備から移住後もアフターフォローまで地域マネージャーを中心に活動している。この取り組みを全域に広げていければよいが、地域の事情により全ての地域でできるとは限らない。山内では農村 RMO の取り組みもスタートさせているが、農村 RMO は、地域の実情に合せた課題解決につなげることができるので、取り組んでみるのも良いと感じる。
外国人家族が転入しても受け入れない地域があるのは残念だ。	

テーマ４：有害鳥獣対策について

参加者意見	議員意見
現在の防除柵等の補助金は、5年の間を空けなければ同じ圃場で補助金がでない。フェンスの支柱は更新が頻繁で、5年縛りを止めてもいいのでは。	補助金枠については満額出るように話しをして、ここ2年についての補助金は満額出るようになった。今後の情勢をみて更なる予算確保が必要か検討してみたい。

テーマ５：地域公共交通について

参加者意見	議員意見
地域の足の確保が大きな課題。ライドシェアなど自家用車での送迎も必要になるのではないかな。	
JR芸備線の必要性、地域経済に及ぼす影響、貨客混載の必要性等について検討が必要。	
地域公共交通として、鉄道だけ考えるのではなく、総合的に考えるべき。	

(2) 自治振興区

NO. 1 庄原地域庄原地区

テーマ：地域の教育環境の充実に向けて（永末小学校、児童クラブについて）

参加者意見	議員意見
統廃合についてどう思うか。	委員会での方向性はでない。
安全対策が大事。	対応が必要という考えは委員会としては提言をしている。
コロナを体験して、大人数は危ない。	教育委員会は「今のままでよい。必要な所は改善している。」と言っている。
ムダな出費が多い。	
現在の子どもをどうするかを考えてもらいたい。	そう思う。統廃合は地域の了解がなかったらしないとなっている。当初の教育委員会が想定したとおりにはない。
安心して教育を受けさせることが必要。行政の効率だけではないと思う。	水後は複式だったが、良かった。永末は残すべき。
適正規模のそもそも論はどうか。議員も学んで議論してもらいたい。	
複式は効率が悪いと結論づけられている。複式は教育としては、いいと思う。	
庄原中は適正規模ではない。	
複式は庄原の状況にあっている。	
10年先は無くなるのだから金をかけないという方向に行っている。	
地元、保護者がもっと声を出していくべきだ。先生の声が聞こえてこないから進まないのではないかな。	

避難所としての体育館は、雨が降れば大きな雨音がして使いものにならない。	
地域の中心は学校。まちづくりの拠点の学校。教育のまちづくりの拠点の学校。まちづくりの視点からプッシュしてもらいたい。	
一昨年と昨年、語る会で同じことを言ってきた。市議会はどう対応するのか。	要望書を出してもらいたい。
	児童数が 50 人から 100 人になったら、それに対応していかなくてはならない。
	要望書・請願書は 1 つの行政を動かす手段である。
児童数減少の根拠は。	住民基本台帳を基に推計している。
計画からのズレが生じている。移住が原因しているのではないのか。	周辺の町から移住している。西城からの移住も多い。
係数をかけないとだめだ。人が多い地域には、移住が増える。三次、安芸高田市からも来ている。	地域のパワーを合わせれば可能だ。庄原自治振興区としての取り組みを期待する。
市の方向性が問題、改善を願っても、児童が減る、その内に落ち着くと考えている。10 年先ではなく今動くべきだ。	

NO. 2 庄原地域高地区

テーマ：芸備線の今後について

参加者意見	議員意見
移住してきて 3 年になるが、まだ一度も芸備線に乗れていない。昔は便数もあり便利な時があったと聞いている。今は不便で駅で降りても何もなく、どこかへ行きたくても歩いていかなければならない。自転車を乗せたりすることはできないのか。	昔は広島まで行ける準特急があったり、便利な時があったが、今は便数も減って不便である。芸備線は管轄が岡山支所と広島支所に分かれていることも原因の一つ。JR に自転車を載せる場合には、自転車を分解し、専用の袋に入れて持ち込むことはできる。それは自転車の詳しい人ならできるが、そうでない人にはできない。和歌山県の紀ノ国線では、自転車を袋に入れなくてもそのまま乗せられる路線もあるので視察に行ったが、未だ実現には至っていない。
住民からすれば、あった方が良くは乗らない。皆乗れば存続する可能性は高くなるが乗らない。そのような状況なので、本当に残したいと思っているのか疑問である。住民は不便だから乗らないけれど、高校生と通学には必要だと思っている。不便な列車はいらない。便利な列車が要る。もっと国が責任をもって主導していくべきではないか。	東城発の 4 本のうち 2 本は朝早すぎて乗れない。JR は不便な便を運航して、利用者が乗れないようにしているように思える。自分で集計を取ってみたが、高校生を中心に多く利用する便もある。高校生などの利用者が多い便を残しながら、一般利用者が利用しやすい便利な便を運航していくことが必要だ。
再構築協議会では、もう一度便利な芸備線とはどのような芸備線なのか実験をして、その後の見通しを考える必要があると思う。	再構築協議会でこの話ができれば良いと思う。JR は、したたかに廃線に向けてデータの積み上げを行っている。ダイヤを増やしたけれど、「ほらやっぱり乗らなかったでしょ」という事を言う。JR は保線ですでに費用がかかるか試算する。東城では、除雪するのも、今まで地元で安価にできていたものを岡山から除雪に来るので経費が掛かるなど、積み上げを行い、上下分離を提案してくる。

	このことは国が責任をもって行わなければならない。海外はそうである。鉄道は二酸化炭素削減にも効果的である。
芸備線という短い距離も大事だが、広島から庄原、津山、そのまま大阪といった長距離を一本で行けるようにするなど、もっと幅広い視点が必要ではないか。沿線自治体の長と一緒にあってそういう活動をした方が良い。	お話のように、もっと大胆に変えていくことは必要だと感じる。
市は、イベントをする事に補助金を出しているが、果たしてそれが芸備線存続のためになっているのかと言えば疑問だ。効果がないのであれば JR の新しい仕組みを構築するための実験を行う事にお金を付けた方が良いと思う。	
3 年前に移住してきたが、大自然に囲まれ、西城川が流れ、その景色の中を芸備線がのどかに走っている。この風景に感動した。この風景は庄原の宝である。この風景を観光の面で活かしていくことが重要だ。また、他国では鉄道は国防の面からも重要な役割を果たしている。岐阜県の東海道線は海からの攻撃を受ける可能性があるため、そうならないような工夫がされている。根本的な国を守るという面で JR に言っていかなければならない。	国防上の役割を果たす場合も大いにあると思う。さらには島根原発で不測の事態が生じた場合などは避難経路として必要であるし、支援物資の搬送など、今までの議論とは違った視点での議論も必要となってくると思う。
	観光の面で言うと、今、広島駅は多くの外国人で賑わっている。今までの外国人の日本観光というのは、これぞ日本というような観光地に多く訪れていた。しかし、これからは日本人の普段の生活を見たい、体験したいという観光客が増えてくる。そのような中で、庄原は古民家を改装して古民家ステイを推していることや、美しい里山の風景は、間違いなく外国人の心をつかむと考える。外国人特にヨーロッパの人々は列車の移動が当たり前であり文化であるので、芸備線がなくなると外国人を誘致したくても、選択肢にも入ってこなくなる。
	昨年、広島市、安芸高田市、三次市、庄原市の 4 市 88 名の議員で、JR 芸備線沿線議員連絡協議会を設立した。昨年末には、国交省に出向き、斎藤哲夫国土交通大臣に面会し要望活動を行った。斎藤大臣は地域からの要望があれば残していきたいと言っていた。JR を地域づくりの一環として考えるようにいわれた。広島から三次までは存続が前提であるが、庄原市は廃線の危機に陥っている。庄原以外の議員も芸備線は全線残すという意見で一致しており、諦めていない。諦めたらそこで終わりだ。諦めずに地域づくりの一環として取り組んでいく。
トラックドライバー不足は今後大きな問題となってくる。物流の面で JR の役割が必要になってくるのではないか。	JR 労組の話では、すでに実験的に貨客混載の実証実験が行われているとのこと。バスでもできているので、できると思う。今後は必要になってくると感じている。

	貨物を走らせれば廃線にできないことになっている。東城の木材チップを JR で広島に芸備線で輸送する話もあったが、重量の関係で実現しなかった。市でも研究するとのことである。
息子が芸備線で通学している。JR に関していろいろ話が出ているが、実際のところは、どの程度廃線の話が進んでいるのか。	実際のところはどこまで進んでいるのか、話がでてきていないので、市の方も把握できていない。再構築協議会もまだどうなるのか分からない。
	再構築協議会は、廃線のための協議会だと思われかねないので、国が慎重になる可能性もある。

NO. 3 庄原地域本村地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
市民の一般感情に訴える聞き方はやめて欲しい。県内で江田島市や安芸高田市と同じくらい報酬が低いとか、年額ベースのデータを示すなど、分かりやすいものが欲しい。	人口が 10 年間で 7000 人減少している中で、庄原市議会としてこのままで良いのか。同規模自治体では 18 人。特別委員会で調査・協議中であり、まだ議会に報告出来ていない段階なので、示せる情報が少ないのが実際のところ。人口は減っているのに、議員定数・報酬はそのまま推移している現状がどうなのか、3 常任委員会体制の維持などを議論している。少人数で審査しても、審査が難しい課題もある。

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
人口がどんどん減って高齢化も進む。水田を管理するにも、水を引く、草刈り、雨で水路が詰まれば掃除をするなど、営農集団の若い者に何でも任せするには無理がある。昔のように出来ない状況が目の前にあるのだから、自治振興区、営農集団、株式会社など、他地域から人を集めてやってもらえるような組織を考えて、何かやって欲しい。	県が主導で地域計画策定が始まったが、若い者への負担が増えると思う。地域がしっかり関わって、地域計画づくりを地域で話し合っていて欲しい。JA、農業委員会、行政、地域が協力してやっていかなくてはならないと思っている。
	農林振興公社が田んぼを受けてやってくれているが、可能ならば公社が払ってやって欲しいと個人的に思っている。

NO. 4 庄原地域峰田地区

テーマ 1：人口減少社会における課題について

参加者意見	議員意見
管理が行き届かない空き家、農地、山林、土地等がある。廃屋について、どこに相談にいけば良いのか。放置するのか、崩すのがいいのか。地域でできることは何か。	担当は都市整備課。崩れたら建設課。担保に入っているため、処理できないなどの事案がある。廃屋は、相続放棄しているケースが多いので処理が進まない。本当に危険なところは、代執行として庄原市が行政として崩したことがある。特定空き家について、決定打がない。

テーマ 2：有害鳥獣対策について

参加者意見	議員意見
市に罾を設置してもらうわけにはいかないのか。	
電柵をしたら補助金が出ると聞いて、領収書を持って行ったが、4月1日以降の領収書でないと受付できないと言われた。一年間を通して対応してほしい。	

NO. 5 庄原地域敷信地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
議員定数を決める基準を「人口」に重点をおくことに賛成である。	議員定数は人口の変化に連動したものとすることが肝要である。庄原市は平成の合併後、7,000人を超えて人口減が進んでいる。しかも、加速している。
	議員定数を決定する要素としては、様々な議論があるが、重要な要素として人口規模に比例した定数とすることが最も説得力のある見解、判断基準ではないか。議員定数・報酬問題特別委員会の主要な見解である。
	人口減に連動した定数判断を全面的に否定することはないが、議会の権能を発揮するためには一定量の議員数は不可欠で、人口増減にのみ規制されるという思考は議会の権能を一定程度放棄するという点も基底にした議論が不可欠である。
定数と報酬を関連づけて2者択一という判断は間違っている。議員活動を支える報酬額は必要。政府（国）も賃金引上げを強く主張している時代になっている。また、庄原市の面積は広いので、議員定数20は必要な数であるといえる。市内全域に市民生活がある。	議員は自治体全体が選挙区であり、市内のどの地域で生活していても、議員は単に出身地域の利益代表という姿勢を強調することは市政全体の責任ある執行を検討し、審議点検検証する任務を希薄化する可能性もある。
議員数が少なくなりすぎても困る。	近年、市議会議員選挙で立候補者が定数に満たないという現実がある。隣市、府中市でも前回市議選は無投票となった。議員報酬は325,000円（月額）で庄原市と旧比婆郡甲奴郡6町の合併以後、変化はない。議員年金は廃止。議員の兼職制限は緩和された。
議員報酬に対する対価（実績）が見えない。実績が見える活動なら市民は報酬に納得する。	議員報酬を引き上げると、その財政負担と相応する市の事業は制約されることになる。
	全市を代表する議員の任務を希釈する意思は議員にはないが、地域の歴史や伝統は市内全域で内容が混在していて、人心も一様ではない。議員も出身地域以外の多様な問題解決、町づくりの原動力の質の差については把握できない部分がある。議員の「地域性」を踏まえた活動は重要である。

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
敷信自治振興区の人口は約 2,700 人住んでいる。11 自治会あり、旧敷信村の 9 つの自治会では高齢化が高く、一人暮らしの方も多。近年、行政はホームページを見てください等、情報化を推進しているが、高齢者の 1 人暮らしや情報化に対応できない方へ配慮した対応ができないものか。 具体的にはスマートフォン教室の開催、いざなぎカードを使いづらいた高齢者への対策、変更はされたがスマートフォン等によるワクチン接種の申し込み等である。	

NO. 6 庄原地域東地区

テーマ：空き家や耕作放棄地がふえているなか、景観管理や獣害対策、市道管理への取り組みについて

参加者意見	議員意見
東自治振興区管内では耕作放棄地などが多くメイン通りでも草が伸び放題の場所が多い。個人の持ち物の場所も多くボランティアで全部行うのは限界がある。ほかの地域ではどのような対策を行っているのを知りたい。 掛田地域では、146 人 50 世帯、そのうち子供は 6 人しかいない。このような現状の中で、今までの決め事が揺らいできている。草刈り、寺や神社の管理のやり方、集会の行い方などの今までの決まりごとが、コロナをきっかけに揺らいできた。今までのようにやっていきたいが、できなくなっている。今後はどうなっていくのかと不安になる。空き家の管理の時間の問題。耕作放棄地の問題もあと 10 年後はどうなることか。	西城地域、特に八銚地区では高齢化が著しく進んでいる。そんな中、自治振興センターは他人ごとではないという気持ちが強く、活発に動いている。自分事として危機感をもって考え、住んでいる自分たちがどうすれば幸せに暮らせるかという話をされている。 小奴可も同じ状況である。市道の草刈りなどは地域の団体などにも補助金を出して管理してもらっているが、これをすべて業者に依頼すると、年間 5 億円の経費が必要となる。現状は 2,000 万円ぐらいでできているので、できる者ができるだけやろうという考え方がある。現在、草刈り作業を委託している業者の単価と、自治振興区などで行う場合の補助金には、開きがあるが、単価の見直しを行っている状況である。そして業者以外の団体を育てていくことが重要と考える。地域の祭りなどの行事は、できるまで続けていくということになるのではないか。 山内は農村 RMO に取り組んでいる。今後地域が持続していくには何をすればよいか議論し、計画を立てて、国からの補助を受けながら、これからの地域づくりを考えている。現在 3 年計画の 1 年目で、課題として上がってきた点に対し、視察などを通じて可能性を探っている現状である。
この周辺は基盤整備しており、大きな圃場が付いていれば家は売れない。売れないからと言って家の所有者は借家では貸したがない。5 年縛りがあるのでなかなか難しい。	農水省の規制があるので難しいのは確かにあると思う。農水省も地域の話を聞くとしているので、5 年後はどうなるのか分からない。方法としては畑に転換する方法もある。これからは水田利活用について国に意見を言っていく必要がある。農地中間管理機構の農地バンク制度を活用する方法もある。条件整備されている田を、やれる人とマッチングさせてもらうことも必要ではないか。

	西城では水田利活用補助金を利用してそばを作っている。そばなどを作るのも一つの方法ではないか。
	信州では赤い花のそばを植えているところもあり、観光面で客を集めている例もある。
田について、林業をやっている人に苗木を作ってもらうなどの方法はとれないのか。	農業委員会は、農地を守るという考え方から、農地を活かすという考え方になってきている。農水省は、条件の悪い田を山へ返してもよいという方向で考えているということは聞いている。
不動産屋に空き家を見てもらったらすぐに駄目だと言われた。	庄原市空き家解決専門家ネットワークに相談してみるのもよいかと思う。田が付いた空き家の販売に関しては、国が動かなければ難しいと感じる。国に要望書を上げることも考えなければならない。
獣害対策の補助金について、一軒の家ではできないので何軒かのグループでやらなければならないことや、基準が分かりにくい。申請期間も決まっているので不便と感じる。	林業振興課に補助金申請の冊子があるので参考にしてもらいたい。上限 6 万円の補助金であり、購入した後に申請できる。件数が多ければ案分するので満額出ない可能性もある。申請が多い場合は補正予算で対応することも必要ではないかという意見もあるが、そのあたりは市にも伝えている。
	電柵などの補助金も必要だが、それ以外の対策も必要と感じる。神石ではドローンを活用した取り組みをしている。庄原市にも有害鳥獣処理施設があるが、今は鹿の受け入れができていない。市は鹿の受け入れもできるように考えている。
川の土手がイノシシに掘られて林業振興課に相談に行ったが実害がないと言われた。	市役所の言う実害とは金額に換算した実害である。場所によってはイノシシの害ということではなく、土木の管轄で要望していくことも一つの方法ではないか。

NO. 7 庄原地域山内地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
議員定数 20 人を続けてもいいのでは？庄原本町に 1 人も居ないのはアンバランスと思う。何か考えてあげたい。地域のアンバランスを考えたい。不自然に思う。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
議員のみなさんは、議員は多いと思うか？少ないと思うか？	地域を回るが、（地元でないと）実際の深いところはなかなか分からない。
	減らすのであれ、20 人のままであれ、市民の皆さんに人数についての考えを示さなければならないと考えている。
	2 万人になってもこのまま行くのかという議論もある。絶対 20 人と言いつけることもできない。
	人口が 7,000 人減少したことを考えないといけない。加えて子供が産まれていない。5 ヶ月に 49 人しか産まれていない。年 100 人

	を切るかもしれない。
	人口、人口密度、財政、議会運営の視点から議論している。
	人口基準だと議員 18 人の自治体が多い。
	財政について庄原市は著しく悪いわけではない。
これ以上減らしてもどうかと思う。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
議員報酬は 30 年変わっていないとの話だが、会社勤めでは 30 年変わらないことはないと思った。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
人口が減るのは何年も前から分かっている。どう増やそうかという行政の考えが見えない。何もしていないのでは？我々が頑張っている。	帰って来てもらえるようなことを考えなければならない。 北自治振興区の人には山内のようなことは出来ないという。北では来地域マネージャーを 2 人増やし、移住定住に力を入れる。 予算権を持っていないので、トップにもっと考えてもらう。
全部の課で取り組まねば、人口問題は解決しない。ひとつの課ではダメ。	オール庄原で考えないと。 人口減少問題は庄原市の総合施策との言葉だけある。ビジョンの部分で連携が足りない。
子育て、福祉も全て人口問題に関わる。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 8 庄原地域北地区

テーマ：なし（フリートーク）

参加者意見	議員意見
庄原には仕事がないという話。仕事はあるが、人がいない状況。	
庄原は広い。工業団地を作って人を呼んでほしいという声があったが、会社は現在、島根県に行っている。庄原市には工業用水はないという事で、工業団地は難しいという現状である。	
市民だけでなんとかしようというのも無理な話である。外から人に来てもらわないといけない。人を呼ぶ方法を考えていかないといけない。	
議員定数、報酬について議員が議員のための議論をしている。若い議員が頑張れば生活が出来るような報酬が前提ではないか。人数については、違う視点で決めていけばどうか。やめる前や、以前いた人に聞いた方がよい意見が出るのではないか。	
人口が増えているのは 10 年、15 年継続して、魅力づくりに努力をしているところだと感じる。場当たりにやっても無駄だと感じる。	議員も、同じようなことを感じている。 計画性なく、場当たり的にやらず、長い目を見て、執行者だけでなくコンサル等を入れて、プロジェクトチームを立ち上げてやっていくことが必要。議員もできていないと感じている。

	様々なことに手を出すようなことをしないで、1つでも突破口となることをやっていかないといけない。
地域資源を活かして、子ども対象・高齢者対象・農地・林業等、対象を絞り、展望を考え、継続していけるようにしていかなければならない。	
庄原市の 85%は山。本当の意味での農地や山を守るような経済活動を作っていくことが必要ではないか。行政に任せるよりも議員が引っ張っていってもらえるように。	
少しだけ農業をしているが、水が来ない、猪にやられる。やっていけない。金銭的に厳しい。やめてしまった方がよいのではないかと考える。	
太陽光か、農業か等判断しないと。圃場整備していないところは太陽光になっていて、草の管理をしていないところもある。それらは売られて、他の人が買って管理が出来ていないし、言ってもやってくれない。田舎暮らしで移住してきた人も、太陽光が多く、草も多いので居たくないという。実態に即して柔軟に発想を変えてやってほしい。	
働く人が少ない。体育館で就職ガイダンスがあり参加させてもらった。参加企業は 30～40 社で、参加者が 47 人であった。自分の企業にも 6 人来てくれた。しかし、今回の催しでも、企業：参加者が 1：1 で、足らないし働きたい人も高齢で、企業のニーズとも合致しない。現在は海外（技能実習生）の力を借りている。それが正しい形なのか？と思うところもある。働き方改革以降難しくなっている。	
魅力的なまちづくりについて、どのように庄原をアピールして人を呼び込んでもらうか。議員にお願いしてもよいのかかわからないが、どうにか人が来てもらえるようにしてもらいたい。	
人口減少について、具体的にどうやっていくのか。そのことについての話が出ているのだろうが、一向に前に進んでいない。具体的な数値（目標値と達成値）が見えない。一般質問でもされているが、答えが全くない。人口減少 1 本に絞っていかないといけないのではないかと？	詳しい評価を出していない。確かに議員の情熱が足りないと感じている。
	議員の得意科目を持つべきである。
	政策は現状維持からスタートする。これまではそれでやってきたが、もうそれでは通用しない時期に入っている。人口減少が財政的に響いてくる。長期総合計画での計画が、どんどん後ろに遠のくことになっている。現状が・・ではなく、今後どうやって庄原市を運営していくかを考えていかなとといけない。
	議会が議決権を行使していかないといけない。現状やったつもりではあるが、市民の皆さんが納得するような働きになっていない状況である。

危機感はみんな持っている。みんなで戦っていきたいと考えている。人が残り、外からも入ってくることに、何が良いのか考えていないといけない。	
議員がそれぞれの振興区の活動などをどのように理解されているか？重要性などをどの程度考えているのか？	自治振興区には強くなってもらいたい。地域担当職員制度など。職員が地域を実際にみていかなければならない。

NO. 9 西城地域西城地区

テーマ 1：西城紫水高校問題

参加者意見	議員意見
西城紫水高校の存続を中心に、西城市民病院、芸備線と全てつながっている、全体的な議論をしたい。西城紫水高校については、県教委や市教委が参加した活性化プロジェクトがあり、守る議論に参加している。その際、県教委はいつも数字ばかりを言う。西城紫水高校は西城中学校の3年生が全員行っても、数の問題は難しい。地元からすれば数の問題ではない。	
学校に特色を出していく必要がある。	
我がふるさとに高校が必要であるという思い、西城に学校があることの値打ち、そこで育った者の気持ちを真ん中に据えて、存続に動いていかなければならない。本気で声を上げてもらいたいと思うし、議員の声も聴きたい。	
特色ある学校づくりをしていくと言われるが、単位制の高校にすればよいのではないか。単位制だと魅力を感じて生徒が集まるのではないか。	実際に、単位制の学校が兵庫県の尼崎市にある。自分のペースで学習ができるメリットがある。西城紫水高校はそれができる学校であると思う。単位制だとさらに良くなるのではないかな。
庄原市として、どういった経緯で西城紫水に補助金を出してきたのかを議員に聞きたい。	財政カットで補助金は減ってきているが、学校を存続させる活動はある。補助金は、3校が集まって、何とかして支援してもらえないかという要望書を出し、実現した経緯がある
	西城紫水高校の生徒にアンケートを実施したところ、すべての生徒で来てよかったという結果が出ている。西城の良さは、いろいろな子が全国から来て、立派に社会に出て行っていること。言われるように、人数ではないと思っている。西城地域に学校があって、地域に愛着の持てる学校であることをPRしていけばよいのではないかな。
西城紫水を含む県立高校を地域に残すために、議員としてどのような発言をされてきたのか。	議員として、あまり発言や議論ができていないことは反省しなければならない。特色ある学校を作る観点から言えば、立派な寮がある。これも西城紫水高校の特色ではないか。西城紫水がなくなれば、西城の全ての面で影響が出てくる。町民全体が高校を残したいという強い思いを持つことが大切だと思う。

西城紫水高校の存続に関しての活動は、ここ 2、3 年で盛り上がってきた。これからは、議員も一緒になって取り組んでもらいたい。	県立高校だから何を言っても難しいという人もいるが、現在、県大の活性化について動いている。同じ県立で動けるのだから、西城紫水高校についても動けないことはないと思う。
	東城は議員が高校の後援組織の評議員に入っているが、県教委はまだまだ動きが足りないと言う。東城は東城高校存続の会を作って動き始めている。西城も今からでも遅くはない。
	北海道では特色のある学校がたくさんある。求められる特色ある学校にしていかなければならない。ドローンなどで特色を出していくことができるのではないかな。
西城は少人数だから良い。少人数だからいろいろなことができる。人数が少ない中で、それぞれがやりたいことを伸ばしていくのが西城紫水高校の良いところだ。いろいろな事情で学校に行けない子供たちが増えている。私立高校は不登校の生徒を受け入れないと聞いたことがあるが、そういう子供たちを受け入れる学校が西城紫水高校である。	特色ある学校にしろと言われるが、このこと自体が、西城紫水高校の特色であると思う。学生アンケートでも全ての学生が来てよかったと答えているし、西城紫水高校で立派になって社会に出て行っている。このことをもっと PR しても良いのではないかな。
地元の思いと具体的な方法がかみ合っていかなければならない。根本的な、強い思いをもって活動していかなければならない。議員にも勉強してもらって、一緒になって動いてもらいたい。	県教委に行って話をしてくる。

テーマ 2：西城市民病院問題

参加者意見	議員意見
医療なしに福祉はない。西城町時代に特別養護老人ホームを作ったが、その時は町から支援してもらった。本来は合併しても引き継ぐという話であったが、打ち切られた。これから、どういうニーズがあるのか、医療の中心はどこなのかを考える必要がある。必要な医療は必要な場所へ、どのような規模かなど、建て替えについて成熟した議論をしてほしい。	西城病院は、地域医療の中心として必要であると考え。病院が老朽化しており、今後どうするのか市長に聞いた。建て替えも含め、あり方について検討すると言っている。

テーマ 3：芸備線問題

参加者意見	議員意見
新幹線は機構が整備して JR に貸し付けている。国鉄から路線を継承する時に、JR 法で決められている。JR 法がある以上、守るべきものがある。数ではないことを解決できるのが議会である。一人でも必要とすれば、動くのが議会。市も議会も、一致していることは、市民を守ることである。しっかりやってほしい。JR はもうからないかもしれないが、国がやっていかなければならない時代である。こんな時代だから、物流が駄目になったらどうする、東京で何かあったら教育はどうする、そんな時に、西城のような場所で教育ができる。	

今、ＪＲは大事な時期である。再構築協議会が設置され、芸備線が日本で初めての例になってくる。命を守る。何でもかんでもやってくれではなく、やれることをやる時代である。高齢化が進む庄原市になぜ芸備線が必要かという事を、議会から協議会に伝えてほしい。	非常に重要なことだと考えている。今後は、もっと強く働きかけていきたい。
--	--

NO.10 西城地域八銚地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
住民の意見としては、人口減の状況を考えると、20人は多いのではないかと。議員の報酬は安いとは思わないが、定数の20人を15人に削減し、余った報酬部分をあててはどうか。	人口は減になっても、面積は広大であり、審議する事案は多い。十分な議論をするためにも、委員会構成を考えると、20人は必要と考える。
3つの委員会を2つにしてはどうか。3つにこだわる必要はない。自治振興区もスリム化している。議会も身を切る考えも必要では。ただし、自らが身を切ることも必要だが、それによって定数割れが生じることを危惧する面もある。	議員報酬の件では、他の類似団体の人口と財政を基準にせよとの、アンケートの意見が多くある。正解が無いので、議員間の中でも様々な意見が出ている。10年間で、7,000人の人口減少は無視できないと考える。定数を削減した場合の議会運営上の手法はある。議員は2つ以上の委員会に所属することが認められている。個々の議員が頑張ればいい。
普通の会社員と同じように、議員も365日議員活動に尽くされたらどうか。本業に力を傾注されているか。	20人は確保しておきたいとの思いがある。委員会の活動は幅広いテーマがある。
普通の会社員と同じように、議員も365日議員活動に尽くされたらどうか。本業に力を傾注されているか。	手取りは22万円である。チェック機能を果たすために活動をしている。
議員が何をしているのか良く分からない。情報を伝えることが無い。議員は聞きっ放しが多い。出来ないことは出来ない理由が聞きたい。	その都度フィードバックは必要であると思う。

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
人口減に伴い、自治振興区の活動が維持できるかが問題である。	どこの自治振興区も同じ悩みがある。
行事に出てくる人が決まっている。自治会長が6年目になるが、役をする人がいないのが一番の課題。	
子どもが生まれない。若者もいない。高齢者が元気で生きていくための自治振興区活動のようである。あと10年すると地域はどうなるのだろう。最大で喫緊の課題である。	

NO. 11 東城地域小奴可地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
議員報酬については、審議会を設置し、学識経験者等で検討するのが本来だと思う。議員は多くもらっているという根拠のない市民の声もおかしいと思う。生活に保障のある状態で、しっかり活動して頂きたい。議会が機能すれば市はしっかりまわると思う。子育てするには少ないとも思うし、もっと活動してもらうなら、議員数は20人では少ないとも思うが、適性が分らない。	議員は選挙だけでなく、冠婚葬祭、イベント、付き合いや活動に経費が嵩む。報酬を上げて若い方にも出てもらい、プライドを持ってやって欲しい。市民の方からもどういう活動をして欲しいかなど、意見を言って、議員に勉強してもらったら良いと思う。
定数が減ると議員の負担が増えるが、人口が減るならば加味して考えないといけない。報酬が少ないからなり手がいないのではなく、議員の活動を見て、やってみようと思うのではないかと。市民と語る会も良いが、議員が出向いているのを見たことがない。一般質問の意見は、ちゃんと市民の声なのか、議員個人の意見なのか。	庄原市の人口は年間700人、10年で7,000人減少している。転出超過も広島県は全国一位。データも考え、類似自治体も見て、定数について考えていかなければいけないと思っている。地域に頻繁に出向いて行けば良いが、なかなか全地域をまわれない。市民と語る会で頂いた意見も、一般質問や会派要望に反映している。井戸端スタイルも開始し、より多くの意見を頂きたいと思っている。

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
振興区交付金の仕組みがこれでいいのか考えて欲しい。振興区によって差が大きい。	企画建設常任委員会で9月に審議した。人口割は住民基本台帳で計算されており、自治会に入っている人数と違う。算出方法を今一度考える時かもしれない。活動をしっかりしているところが活動費を充ててもらわなければならないと思う。
事務局の処遇改善をして欲しい。なり手がいない。全国的に比べてこの制度で良いのか。自治振興区制度が本当に良いのか分らない。人口減少で集落も維持出来ない。喫緊の課題であるので、早急に何とかして欲しい。	イベントや祭り、役員会など集まりや行事が多く、役員になるのを嫌がられる。事務局の勤務時間や処遇への不満は聞いている。議会でもまさに議論しているところ。

NO. 12 東城地域八幡地区

テーマ：地域交通について

参加者意見	議員意見
なまじ公共交通機関が使える状況で、逆に不便になっている。	岸田総理のライドシェアの法整備を待つしかないという思いもある。
三次市青河は地域全世帯で1つの軽自動車を共有している。	どこもいろんな取り組みをしている。
動かなくても生活できるような発想にしていけないといけないのでは？	バスはあるが運転手がいらない、という会社もある。

国で法律を変えてもらわないと思うようなことが出来ない。都市部と地方の田舎を一緒に法律でくられると成り立たない。実情に合わせたことを考えてもらわないといけない。	プロジェクトチームを作るなどやっていかないといけない。県などに連動して市もつくっていている。計画などがすぐに役に立たなくなっている。
--	---

NO.13 東城地域田森地区

テーマ１：有害鳥獣対策に対する支援の強化について

参加者意見	議員意見
田森地域に 340 ヘクタールの農地があるが、そのうち 20 ヘクタールがイノシシの被害を受けている。トタンは押し上げて侵入し、電柵もメッシュで高くしなければ対処できない。この状況が続くと農業がやっていけない。6 反 2 畝の田をメッシュすると 110 万円の経費がかかる。行政からの支援の強化を望む。数頭捕獲しただけでは間に合わない。	メッシュをしていても倒木の影響で毎年修理が必要である。地元では 12 軒が共同で箱ワナを仕掛け共同処理場へ運んでいる。
	捕獲に対する 1 頭当たりの料金の値上げも必要と考える。
	国・県の補助金があるが、対応策の取れない地域があるので、要望は続けていく。

テーマ２：人口減少に対する支援の強化について

参加者意見	議員意見
定住に対する補助金をもとに、地域の情報発信等、様々な取り組みを実施してきたが、残念ながら毎年 20 名程度の人口減少がある。定住対策をもっと目に見える形で展開し、庄原市の PR をしてほしい。自治振興区も連携を取った取り組みをしていく。	東京に広島県のアンテナショップを出している。総務省のふるさと回帰センターからも情報を出している。
山内を選ばれる理由は何か	山内地域では 20 数世帯増えている。小学校の統廃合の案が出されたことが契機に地域で話し合い、庄原市以外から移住してもらおうと、空き家をみんなできれいにするなど（てごおし隊）活動を開始した。地域をあげて山内地区に移住してくる人を大歓迎している。14 の自治会があるが、移住会議を設けている。市からも一定の補助金をもらっている。
市との懇談会があつてファンクラブのことも話されたが、若い人が定住して残らない限り人口減は止まらない。庄原市の魅力を大いに発信し、企業ともタイアップして取り組んで欲しい。	山内は田園地帯が広がり、立地条件が良い。県立大生が「てごおし隊」に入っている。実業高校の生徒も県大の授業に参加し、儲かる農業への取り組みに向けた行動を起こしている。 人口流出の怖さは、若者が出て戻らない現実がある。仕事と住居がマッチングするような取り組みが重要である。
子どもは少なくなり、高齢者が多くなっているが、私たちにとって、現在の生活の充実を考えることも必要ではないか。ここは住み心地がいいと思えばいい。	取り組むにも立地条件の差があつて一様にはいかないが、地域財産を洗い出して、PR していく事が大切ではないか。
20 年前より少子化は進んでいる。出産にも子育てにも、更に教育費にも金がかかる現状がある。国は少子化に対してもっと本腰を入れるべきである。	今住んでいる人たちが幸せを感じることが大切。そんな環境なら、友達が友達を呼び、人間関係は発信力も高まる。
	市議会として、出生率の高い岡山県奈義町に視察に行ったが、庄原市が真似のできる条件ではない。

明石市の取り組みについてはどうか。	実際に前市長のお話を伺ったが、完璧なトップダウン方式であり、公共事業を止めてでも子育て支援策をされていたが、真似は出来ない。
-------------------	--

NO. 14 東城地域東城地区

テーマ１：地域公共交通、特に東城～庄原間の移動手段について

参加者意見	議員意見
JR 芸備線は再構築協議会が設置され厳しい現状であるが、バスに関しても、東城―庄原間は非常に不便である。東城―広島便も昔は多かったが、今は少なくなっている。庄原赤十字病院へ行くための便は確保されているが、平日はある程度良いとしても、休日は極端に厳しい状況である。夕方まで広島で会議があると東城まで帰れないし、朝一番の便で出ないと広島に午前中に着けない。庄原から先の移動手段も何とかできないか。	東城庄原間は急激に不便になった。東城から広島にバスで行くときには三次まで車で行って、三次からバスで広島に行っている。どのような時間帯にどのようなバスがあれば良いかご提案いただければと思う。市町村合併の時に主要な路線を確保するという話だった。芸備線も不便で使いにくくなっているので社会実験をしていく必要がある備北交通などのバス会社も、働き方改革などの国の規定がこのような状態を招いている。備北交通も運転士不足が一番の問題である。JR の活用を促進して JR とバスと一緒に利用するやり方も必要だ。広島⇄三次間は JR で、三次駅からはバスでというようなバスと JR との連携が必要と考える。連携、乗り換えがスムーズに行えれば良いのではないかと考える。庄原市の地域公共交通計画の中に、高速バスは計画に入っていない。高速バスも計画に入れてもらうような要望も出すこともできるのかなと感じた。
バスの自動運転の実証実験を庄原で行えばよいのではないか。	
高速料金は中型が安いので中型にしているのではないか。そのあたりに補助金を出すとよいのではないか。	
昨今は高齢者の免許返納や一人暮らしの高齢者が増えている。バス停まで遠いという問題もあるが、今まで通り、どこでも手を上げれば停まってくれればありがたいのだが。	MaaS を導入してバス停まで遠いので不便になったという声を聞く。中学生、高校生がテスト期間中は昼間にバスに乘れないので不便であるという話も聞く。新免は MaaS の実証実験が終わって実際に運航されているが、その場その場に合ったやり方をしていかなければならないと感じる。執行者に伝える。既定路線はバス停でないと乗れないが、乗り合い不定期運航であればどこでも停まってくれる。国の規定の枠が違うので、今の状況を要望書として挙げていくことも考えてもよいのではないか。MaaS の場合はバス停を設定することができるが、予約する手間がかかったり、予約がなければ走らない場合もある。それもよし悪しなので、路線が良いのかデマンド交通が良いのか自治振興区から要望を上げてもらうことも良いかもしれない。
自分が住んでいる場所は東城の町に近いけどバスがない。時間によって、スクールバスはあるが乗れないので困っている。昔は新見行きがあったが今はなくなっており不便だ。	自治振興区と話をして、市民タクシーを導入することを考えてみるのも良いと思う。

白タクは都会よりもむしろ田舎の方が必要であると感じる。高齢者福祉施設の送迎や移送用の車は、昼間に空いていることが多い。その空いている時間を利用して車と運転手を有効活用するという事も考えられる。国もこのことに関して動きを見せている感じがある。	高齢者福祉施設以外にも、保育所の送迎用の車も昼間は空いている。MaaSを導入し、これらの車を活かして交通空白地での有償事業はできると思う。市に届けていく。
JR 芸備線は朝の乗車率は 70～80%と見て取ることができるが、そのほかの時間はほぼゼロ人である。芸備線の廃線は避けられないと感じている。芸備線が廃線になれば線路を取り除いて道を広げて便利になる場所もある。	JR 芸備線に関しては、様々な立場で存続や廃線の意見も違うことは認識している。今後、インバウンドを考えたときに、もしも JR が廃線になった時には地図上から東城駅などの駅名が消えてしまう。そうなればインバウンドを東城に呼んできたとしても、列車の移動が文化である海外の人には選んでもらうことすらできなくなってしまう。

テーマ 2：東城市街地に多世代が憩える公園を

参加者意見	議員意見
東城には公園がない。帰省してきた子供連れが遊ぶことができないという意見が聞かれる。自分が若いころ、子供を産んでリターンで帰ってきてても、公園で遊ぶことができてなくてびっくりした。子育て世代、高齢者、児童が利用できる公園があれば良いと思う。保育所に居る時は遊べるが、小学校の遊具は使用できない。	現在の社会は管理社会であるので、学校の遊具は利用しにくい。自治振興区が責任をもって学校を公開することも方法の一つだと考える。先日、教育民生常任委員会で奈義町に視察に行ったが出生率は 3.01 であった。公園などの整備は子育てにとっては必要であると感じた。ここで子育てがしたい。ここなら子育てができると思ってもらえる庄原市にしていきたい。
ゆうゆうサロンの中に公園を作れないかと思ったが、庄原市の持ち物になっていた。川が広く整備されたので親水公園のようになれば良いと思う。	ゆうゆうサロンに関しては、改修が必要であると感じている。来年度の予算要望で要望を出している。 市長は今年度の施政方針で多世代が集い憩える場の整備について言っている。場所など具体的なことはまだはっきりとは決まっていないが、多世代が集える場所の整備を着手していくと表明している。施政方針はホームページで公開されているし、一般質問でも質問した議員もいるので確認してみたい。

NO.15 東城地域帝釈地区

テーマ：農林業の現状と課題

参加者意見	議員意見
農業については、後継者がいない、猪の問題などがあり、今後集落を維持できないのではないかと不安。国は大規模農家支援が依然として続いているが、家族農業、小規模農家の支援をしてこそ維持できるのではないかと。林業については、林業施策拡大と市長は言っておられ、令和 6 年度から森林環境税 1,000 円の徴収が始まり、転換期にあると期待している。財源を有効に活用し、基金への積み立てではなく、林業に使って欲しい。具体的な施策のかたちを期待し	林業に対して幅広く予算を使えるよう国にも要望しており、現在、本市では所有林の意向調査を実施している。作業道への助成の要望もしている。林野庁も要望を挙げて欲しいと仰っているの、先進的に庄原がやって欲しい。

ている。	
農業をしながら山も昔からやってきた。全ての問題は繋がっていると思う。学校が無いから子どもが出ていく。山があっても道がなければ切り出せない。昔はあった林道への助成がない。森林環境譲与税を活用して欲しい、全然進まない。市の林業に対するビジョンが全く見えない。辛抱していても希望が見えない。市職員はいいっぱいで、新しい仕事をするのは大変だと思う。県に言われて仕方なくやっている印象に取れる。観光で言えば、観光に関係する人を採用してもらうなど、人事で振興を図るなど必要。誰がいつまでにするかというビジョンが非常に大事だと思う。	22 世紀の庄原の森林（もり）づくりプランはあるが、市民の要望とリンクしていないと思う。意向調査や日南町のアカデミーへの人材派遣などに費用がかかると聞いている。
猪の処理場は土日が休みだと猟師に聞く。撃ったらすぐに持って行ける状況にして欲しい。また、販売している加工品の消費量の状況はどうか。	土日休みでも対応出来る環境にあるとは聞いている。処理場を拡大する予定だが、下水処理が必要で場所が見つからない。林業振興課が所管というのも疑問がある。 会派で捕獲奨励金を 5,000 円から 1 万円へ増額を要望する予定。肉は、一部学校給食に使用、ペットフードやソーセージにも加工、ロース肉など道の駅たかのやイベントなどで販売している。予定数の倍捕獲されており、販売も好調だが、余っている状況。他市町の売れる加工品の研究や、市内でジビエレストランを開業された方に協力頂いて、イベントや商品化のチャレンジも可能だと思う。
地域計画について、やっと自治振興区へ説明があった。発想は良いが行政から降りてきて本当に良い計画が出来るのか心配。農業委員が一筆ごとに調査し苦労している。関わりたくはないが、土地を守る大事なことで、地域が関わらなければ良い計画は出来ないと思う。	県主導で農協や農業委員会等関係者で動き始めたところ。農業委員の方の苦労は聞いている。どのようにすすめていくのか分からないが、若い農業者への負担が大きくなると思う。しっかり私たちも関わらなければと思っている。最終的な決着点も大事である。

NO.16 東城地域久代地区

テーマ 1：人口減少と高齢化の中での子育て支援策について

参加者意見	議員意見
庄原市は、確かにのびのび過ごせるところだと感じたが、今後生むのに、3 人目はどうしようかと考える。支援センターは素敵なところ。一番の不安は経済的な面。高校、大学と考えると、2 人が限界とを感じるし、周りからあなたたち自身は大丈夫か？と言われる。	自由に遊べて交流できる施設が多くあるわけではないので、今後考えていかないといけない。市も検討している状況。拠点施設は旧庄原市に整備することを検討している状況。
振興区として、R5 年度子育て支援を始めた。 1 出産誕生祝い金 2 地域内外問わず保護者と子供の交流の場、子育てサロン事業 東城地域は支援センターが開設されていない。また、公園がなく、他の市町に出るしかない。久代は 350 人。今後、振興区が存続でき	

るか、子育て支援事業ができるのか不安であるが、絶やさず続けていきたい。子どもたちの遊ぶ場所、交流する場所が必要なので、欲しい。	
配布した資料を見ないとわからない支援が多い。ファミリーサポートが進んでいないと聞いたので、調べたところ、利用できると聞いた。困っているのは、提供会員が少ないので、利用につながらない。誰でも出来るものではなく、難しい面があると思うが、ファミサポを知らない年配の方が多いので、周知することが出来れば、提供会員が増えるのではないかと考える。	配布資料にあるように、他市と比べてよい点もある。発信という点で、市内にも市外にも、子育てに力を入れていることを知られていないという課題を感じている。経済的支援についても、伸びてきているが、「他市と比べて」や、「今までは」という回答が多い。委員会でも議論しているので、良い報告ができればと考えている。

テーマ2：有害鳥獣対策について

参加者意見	議員意見
久代ではサルが多い。サルが出たら30頭以上出てくる。出てきたら2日くらい居座る。農作物を人間よりサルがたくさん食べていく。作るのが馬鹿らしくなって作れない。	
少子高齢化で、集落を挙げた対策は難しい。また、多額の経費がかかる。補助も予算の範囲内とあって、十分もらえない。	
補助の事業も継続して、ありがたいことである。変わらず被害が出ている状況である。絶対頭数は減っていないのではないかと。一家に一台猟銃をや、自衛隊に来てもらって実弾演習等、限界が来ているので、しっかりとした有害鳥獣対策を考えていただきたい。	補助金などはある。若い人が狩猟免許を取ったりしているが、抜本的にどうしたらよいのかという、答えがないのが正直なところ。

NO.17 東城地域新坂地区

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
田舎の方が暮らしやすいということが無ければ、人口が減るのは仕方がない。小泉政権の時に無駄な道路は建設するなどと言った。その流れで現金収入が無くなった。300万～400万の収入でも、車が無ければ生活が出来ない。国へきちんと伝えて欲しい。	人口減少に対して、実現可能な施策を行政は考えているが、急激な人口減少であり、後追いとなっている。決め手がなかなか見つからない。
人口が減ることよりも、どうすれば食い止めることが出来るのか、最大限の努力について意見を聞きたい。	働いている人の賃金を上げることが必要である。30年間賃金は上がっていない。結婚も難しい。一極集中と言われる都会でも、生活の苦しい人はいる。
一極集中を止めて、田舎に引き受ける状況を作ることが一番ではないか。小さな集落が無くなっていくのをどうするのか。5年すれば孤立する。	人を増やすということも考えて欲しい。
地域としては一生懸命やっている。	若い人は帰ってきているのか。
都会と地方を比べれば、都会が金銭面、労働面では、案ではないか。税金は取られ、よそへ持っていかれる。この地域では、一人に	税金のあり方については考えるべきだと思う。

一台車がいる。この状況を考えて欲しい。田舎に住めば経費が安く済むような施策は出来ないのか。	
若者を増やすための働く事業所が無い。田舎での企業誘致は考えているのか。	会社の誘致として「おためしオフィス」の取り組みを、比和、総領で実施している。
ネット環境を生かした企業誘致はいいと思う。2016 年に光回線が引かれているが、もっと宣伝をしてはどうか。又、帝釈峡の宣伝をされているが、馬渡遺跡の価値を考えれば、案内看板のみではなく、東城にある考古学の発祥の地であることなど、丁寧に説明して欲しい。又、崩落のままの遊歩道の工事の計画はあるのか。	帝釈についての講演も聴き、縄文時代の遺跡がどれ程価値のあるものか学んできた。子ども達にもしっかり伝えることも重要と考えている。崩落現場の修復工事には 40～50 億かかると聞いている。市長から県に対して強く要望がなされている。
新坂地区には市議会議員が一人もいない。今日の会は、市民の声を繋いでいただく良い機会であると思う。現在の災害復旧の進捗率は？	事業者の不足による遅れがある。基本的には令和 5 年度に全ての入札を終える予定と聞いている。平成 30 年 7 月災害の復旧工事が遅れている。本年 9 月 1 日現在で 88.8%の工事が完了している状況である。
マラニックが新坂の活性化に繋がれば良いと思う。来年も実施されるのか。	実施の予定と思う。
住んでいる郷原地区は、高齢化率が 80%を超えた。役員の後継者不足は、当然の成り行きである。	19 年前に合併した。協働のまちづくりを掲げ、自治振興区への交付金も多く、他の市町より突出していた。現在は疲労しているのではない。

NO.18 口和地域口和地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
アンケート結果を見ると、「自分の意見が市政に反映されていない」と思う市民が大半である。市民との対話が少ないのではないかと。対話で出た意見を、常任委員会から市へ提案できる議会になってほしい。執行者から見た議員はなめられていると感じる。議員がもっとしっかりとした議論ができるようにならなければならない。委員会を二つにしても、議員の数を減らして、議論をしてもらいたい。 議員報酬に関しては、今の議員報酬だけでは将来暮らしていけないと思う。議員年金の必要性を訴えていく必要があると思う。議員定数はそのまま、議員報酬は年金をもらっていない若い人でも生活できるようにしなければならないと思う。	現在、議員定数及び議員報酬調査特別委員会を立ち上げている。議員に対してのアンケートと市民アンケートを行い、人口、面積、財政状況、委員会の構成など様々な角度から議論している。次回選挙までには、何らかの形で皆様にお示しすることになるが、現在はまだ議論中であり、中間報告をまとめていく段階である。中間報告がまとまり次第皆様にお示しする。議員年金がなくなったのは厳しいと感じている。特別委員会へ持ち帰り議論する。委員会の構成については、庄原市議会としては、委員会での議論を活性化させるという事で、委員会活動を重視する中で適正人数を議論している。
議員は市民の方とどのような形で意見を聞いているのか。	SNS や報告会、直接話をしに行っている。地元の方との話が主な活動だが、月に一度、定期的に会派で市民の方との意見交換の場を設けている。そこでは様々なお仕事の方や学生など幅広い方々のお話を聞いている。SNS での情報発信やコメントのやり取り、地域活動の中での話、毎月 1 回定期的に、会派で市民の方との意見交換などを行っている。個人的な対話、消防団や地域の活動、その他自分の所属している場で情報収集を行っている。

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
振興区として移住対策はやっているが、それだけで追いくわけではなく、歯止めが利かない状況である。9の自治会があるが、役を引き受けてくれるものもない。組織検討プロジェクトを立ち上げて、新しい組織再編を図っている。	口和にしても山内でも、移住者が外から入ってくことで自治振興区も活性化するのがかなと思う。
自分も移住者だが、口和に決めた理由は、空き家があること、地元に住む人のサポートがあったことが決め手である。庄原市には、移住に関してのセールスマンみたいな人が必要だと感じる。庄原市には、移住コーディネーターがいないので、県から移住者の紹介を受けにくくなっている。移住対策にはしっかりと予算をつけて、もっと本気になって取り組まなければならない。	移住対策で補助金があることの案内が無かったり、本気度が足りないと感じている。この辺りはしっかりと市に届けていきたい。
移住者が入ってくことで、高齢者ばかりだった地域が若返った。小学校も子供が増えて賑やかになった。今後の人口動態を見ると90代が多く、60代が少なくなり、70代～80代が地域を支える時代が来る。今後は自治振興区をどのような形にしていけるのか、考えていかなければならない	自治振興区の在り方については企画建設常任委員会で調査している。組織再編を考えていかなければいけない。これからどのような形が一番良いのか探っている段階である。光ファイバーを活用して自治振興区の業務の簡素化し、人手不足を補う事も必要だと思う。

NO.19 高野地域高野地区

テーマ：地域交通と空き家対策

参加者意見	議員意見
空き家はあるが、中に物がある。使う方とのニーズの相違もあり、来たい人を断ったこともある。また、水道など、課題を一つずつ解決したい。高野では協議体を作りながら進めている。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
地域交通の現状は、スクールバス、お出かけワゴン、路線バス、高野交通がある。課題としては、お出かけワゴンの本数が少ない、路線バスの停留所が遠い、ワゴンと路線バスの乗り継ぎが合わない、デイサービスで福祉センターに行っても買い物が出来ない、庄原・三次に買い物に行きたいが行きにくいなど。それらへの対応としては、「なんずかんずつながる会」で検討している。地域交通の何に取り組むべきかの曼荼羅チャート作りも行った。今後は、有識者からの助言や先進地での研修など知識の醸成を図ったり、事業推進のための専任担当者を配置することなどを考えている。	高野交通に補助金を渡して、もっと使いやすい交通を作れないか？と考えている。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
課題解決のためにやることを見える化するために、曼荼羅チャートを作った。「なんずかんずつながる会」で取り組みを進めている。	
連協定住部会で取り組みを行い、空き家の問い合わせ5件に対応中である。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

幹線道路から外れると、井戸水の家が多い。何年も空き家になると、井戸が悪くなっている。 井戸を掘るにも 100 万円以上かかる。どうにかならないか？	空き家対策として上水道の計画を検討してもらいたい。企画建設常任委員会にて協議・確認。
住宅と農地が別の所有者となる事例がある。住宅だけを求める人は少なく、農地も欲しい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
親が作っているところを継ぐと新規就農にならない。	企画建設常任委員会にて協議・確認。
農地の集約化の問題。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
空き家と農地の一体となった活用が必要で、農業委員会との連携が要る。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
水道完備物件、賃貸物件を優先している。	水道の問題は大きい。ここを解決するために話を持ち帰りたい。移住を考える上でも大事。諦めずに言っていく。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
片付けボランティアを募集し、今月初めて片付け会を企画している。ボランティア登録が 35 名ほどいるが、ボランティア登録 100 名を目標としたい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
令和元年から、高野地域創生事業で藤山浩さんにアドバイスももらっている。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
空き家バンク 6 戸のうち 2 戸しか水道が通っていない。井戸を掘って売れるなら良いが、分からない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
	空き家所有者さんは市外在住者が多い。
	固定資産税の支払いを考えて、タダでもいいから譲りたいという人もいる。
定住促進奨励金は、住宅を取得しないと奨励金が出ない。賃貸では出ない。片付けボランティアにも補助が欲しい。	庄原市はさまざまな施策をしているが、宣伝が下手。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
	親元就農が OK なのが分かりづらい。
庄原市の魅力はなんなのかを体験してもらうため、各地域にお試し住宅を作してほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
市に危機感がない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
定住課はプロフェッショナルがいるべきところ。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
上から目線で税金の無駄遣いと言われることがある。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
総領の市営バスが出来た経緯はどうなっているか。	中国バスがなくなったので市営バスが出来た。
	公共交通への補助金 2 億 5 千万。補助金を振り分けて、より乗りやすい交通に変えられないか模索している。公共交通の社会実験をしてはどうかと考えている。400 万で運転手を 20 人雇うなど。
認知症で、要介護 2 でも運転をやめない。やめられない。少ない年金で高い買い物をしてながら暮らしている。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 20 比和地域比和地区

テーマ：【共通テーマ①】議員定数及び議員報酬に係る市民アンケート結果と議会の役割について

参加者意見	議員意見
※関連意見なし	

テーマ：【共通テーマ②】人口減少社会における自治振興区活動の課題について

参加者意見	議員意見
※関連意見なし	

NO. 21 総領地域総領地区

テーマ：人口減少社会における持続可能な生活基盤について（移動手段、買い物、働く場所等）

参加者意見	議員意見
合併時より人口は4割減少し、世帯も減少。JAや、町内のスーパーの閉店が続いた。児童、生徒数も減少し、高齢化率も上がっている。こうした状況の中で、人口減少社会における持続可能な生活基盤を構築していかなければならない。 本年2月に振興計画策定のためのアンケートを実施した。日常生活での困り事として、鳥獣対策、公共交通、農地の荒廃に力を入れて欲しいという意見が多くあった。地域でどうやって安心して暮らしていくのか知恵を出し合いたい。	総領地域振興計画に沿って共に考えていきたい。移動手段など地域で頑張っておられる印象を受ける。
こまわり君はボランティア的要素が大きく、運賃は乗車時間で計算しているが人件費は出ないのが実情。町内だけの運行で庄原までは行けない。今からの移動手段は玄関から玄関までが希望となる。ライドシェアに関し、予算のヒアリングに対する声が出てこない。こまわり君はダイレクトに庄原へも三次中央病院へも行けない。こまわり君の利用で、自身の行動範囲が広がれば、健康寿命を延ばすことにもつながるのではないかと。改善を望む。今までも陳情してきたが結果がでないことに不満がある。	地域交通課もあり模索している段階。ライドシェアも難しい問題がある。議会も執行者も考えていかななくてはならない。
定住促進住宅が20年経つと家賃の減額対象とならず、若い年代の転居者が課題と考える。人口減少対策として検討すべきでは。	時代にみあった住宅政策の必要性があるのでは。

7. 意見交換

(1) 井戸端スタイル

NO. 2 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

参加者意見	議員意見
庄原市の多くの課題に対応する課があるが、一つの課では対応できないのである。それらをトータルで解決しようとしているのはどこか？	コントロールタワーのようなものはないのが現状。

十分な情報提供がされ、市民が取捨選択できるようにしてほしい。	広報公聴が大切。変えていこうと考えている。
議会を傍聴して思っているが、執行部と議会が両輪になっていないと思う。ほとんど課長答弁。それは委員会でやってよ。聞きたいのは市長などのトップの話。これからの具体的話。	
木山市政 10 年の総括等を聞いてほしい。もっとやり取りしてほしい。	
本会議は部長以上に限定など、思い切った改革をしてみしてほしい。	
	議員間でも連帯連携をつくっていかないといけない。
成果が出ないことに予算を割かず、本質を見極めやってほしい。	
	課が機能しないなどの話で、庄原市の将来について検討するための核となる部署がない。そのような部署がないと、それぞれ個別にやることに追われてしまうので、仕組みづくりが必要である。

NO. 4 国際ソロプチミスト庄原

参加者意見	議員意見
比和の長者屋の利用状況はどうか。	古民家を改装した宿泊施設は庄原では 3 か所あるが瀬戸内 DMO が整備した。庄原のジビエを提供したりしている。人気が出てきており、利用も増えてきていると聞いている。 インパウンドにはもってこいの施設だと感じる。今までは観光地を巡っていた外国人も、これからは日本の原風景や日本人の普段の生活体験を求める流れとなる。広島駅は外国人が大変多く、この外国人を庄原に呼び込むことが今後は必要となる。外国人（特にヨーロッパの国々の人）は列車での移動が文化であるため、庄原まで来てもらうためには JR 芸備線を必ず残さなければならない。
市全体で同じことをするのではなく、地域の特色を活かしてフレキシブルに考えていってもらいたい。それぞれ違ったやり方でやってもよいのではないかな。	旧市町ごとに違ったことをやるのもよいと思う。どこの地域も同じことをやっているともうまいかなと思う。

(2) 自治振興区

NO. 2 庄原地域高地区

参加者意見	議員意見
森林環境譲与税の使用について、どのようになっているのか。竹チップの粉碎機購入などに使えるのか。	森林環境譲与税は、今後は森林面積の広い自治体に多く配分されていく予定である。 市民の皆様からの政策提言があれば、委員会でも議論していきたい。市は、山の整備や再造林するときの山主の負担率を下げた。道路などの支障木などの整備などにも使えるかもしれない。

森林環境譲与税は、使用していないものを基金に積み立てている。基金に積み立てるのもよいが、関係人口創出のための事業に使用してほしい。森林を整備したり、芝生で子供たちができる場所を整備するのも良いのではないかな。	事例報告として、西城町観光協会では、使っていない林道をマウンテンバイクで走り、林業体験を行ったりするモニターツアーを実施した。今後は、宿泊も取り入れたプランも計画されている。山を利用して関係人口増加の事業に森林環境譲与税を使えるようにすればよいという提案は、市につなげていく。
---	---

NO. 3 庄原地域本村地区

参加者意見	議員意見
庄原小学校の児童クラブに迎えに行く通路の水はけが悪いと、昨年も伝えたが改善されていない。 上野池弁天島の手前上がったところが、通学路だが、三角棒で道路整備の対応がされていない。花見などで、よそからお客さんが来るのに迷惑になるので、早く対応してほしい。出来ないなら出来ない理由を報告してほしい。	庄原小の水はけの件は、昨年の市民と語る会で伺ってすぐに担当課に伺い、保護者からも声が届いており対応すると伺っているので、今一度確認する。上野池弁天島の道路については確認して必ず報告する。 →庄原小学校児童クラブの通路の水はけをよくする工事を2回教育総務課で対応している。 通学路については、建設課において上野池路肩の改修予算化がされている。
芸備線を頻繁に使っていたが、今は乗る人がいない。イベント時は満車だが、一時的なもの。気持ちは無くなると寂しいが議会はどう考えるか。	芸備線にどこまで予算を掛けるのかという視点も議会は持っているが、出来る限り存続してほしいのは議会も行政も同じ。芸備線対策再構築協議会も設立されたが、議会は何も情報を持っていないのが現状。
滝口前市長に賠償責任をひとりで背負わせるのはおかしいのではないかな。議会も承認した責任があるのではないかな。	当時特別委員会を設置し、調査した。「議会は賠償責任を負うものではない、謝罪も必要ない、気付くことが出来るものがなかった。」というのが、委員会の報告であった。個人的には責任の有無に疑問もあるが、市は国に通すだけで関係ないとのことで、施設も見せてもらえず、妥当性が分からなかった。企業誘致で良い事業だと思っていたし、当時有識者も素晴らしいと言っていた。前市長には責任があると思っている。

NO. 4 庄原地域峰田地区

参加者意見	議員意見
立地適正化計画について、地域外に家を建てる時は届け出が必要で、さらに、必要に応じて計画が修正される場合もあると書いてあった。建てるな、住むなということか。	
庄原市の将来ビジョンについては、市民と話をして作ってもらえないといけない。	そのことは、議会ですべても言っている。我々も政策提案をしているが、なかなかやりますとは言ってくれない。現状、出生数も減り、今後のビジョンを作るのは非常に難しい。執行者側も意見を受け止めてはいるが、反映していくのはなかなか難しいと感じている。

中心部に人を集める方向だと感じた。住んでいる地域で安心安全に暮らせるようにという方針もあり、同じ市の中で方向性が違う。どうなっているのか。	コンパクトシティは青森市が発祥。中心市街地がドーナツ化していったので、中心部に人を戻そうという発想。それを多くの市町村が真似している。庄原市は、広大な面積がそれを難しくしているように感じるが、これといった方向性は見えてこない。こういった会を繰り返していくしか前進がないのではないかと感じている。
--	--

NO. 6 庄原地域東地区

参加者意見	議員意見
議員定数は変更しなくてよい。議員報酬は増やすべきである。定数を減らすとますます地域課題が見えなくなる。議員報酬に関していえば、経費はかかったとしても、このお金は5年後10年後への人的投資である。	現在庄原市議会では、定数及び議員報酬特別委員会を立ち上げている。昨年は議員に対してのアンケートを行い、今年は市民アンケートを実施した。このアンケートをもとに、人口、面積、財政状況、近隣自治体や類似自治体との比較など様々な角度から議論を重ねている。結果がどうなるかは今の段階では決まっていないが、次の選挙までにははっきりさせる。現在は中間報告を取りまとめており、まとも次第住民の皆様に公表することとなっている。
ラ・フォーレ庄原の経営状況はどうか。	庄原市が取得しリニューアルしてから一年半が過ぎた。コロナの影響もあり厳しい状況が続いていたが、コロナも5類に移行され、お客様も増えてきていると聞いている。昨年度は黒字決算であったとの報告を受けている。住民の方からは、庄原市民への特権はないのかというご意見があるのが、いかに庄原市民に利用してもらえるかが大切であると思う。これからは地元の人に使ってもらいやすい対策も必要ではないかと感じる。
ジュオンの問題はどのようになっているのか。	市は住民訴訟に敗訴し、地方自治法に則って滝口前市長に2億3800万円と遅延金1億円を含む3億4千万円を請求した。

NO. 7 庄原地域山内地区

参加者意見	議員意見
今は教育環境を求めて他所に行ってしまう。昔は、教育を求めて庄原に人が集まってきた。	みとうハイツは人口が増えて、永末小学校がいっぱいである。教育委員会は何年か経ったら減と考えている。
	地域からは、放課後児童クラブもどこに入るのか？と言われる。前向きに、頑張っているところ、増えているところをどうするかの話も必要。
	議会がまとまって執行者と話をし、オール庄原を作っていく。PDCAサイクルを回さないといけない。
築100年以上の空き家は直すのにお金がかかり、若い人が住めない。行政が本気で力を入れ充実させてほしい。水の問題、トイレの問題、色々ある。	山内の空き家対策が素晴らしい。先進地域。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

山内では、地域の年配の方のマンパワーがすごい。やってみようと言う。川北でもきっと出来る。みなさんやる気一杯だ。いいイメージを伝えて、出来るように引っ張る人が必要。	
山口大の院生、県大生が、シェアハウスを作って帰ってくると言っている。それだけ地域に魅力がある。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
永末保育所では、年中、年長の人数が、2学年の合体で17名がマックス。それだと、小学校で複式になる。そこを解消したかった。	教育民生常任委員会にて協議・確認。
川北の保育所、庄原の保育所が空いているから、保育所問題は取り組む必要がないと言われていた。山内に増やして欲しいという声が聞いてもらえなかった。これでは定住対策は難しい。	保育士の確保が難しいこともあったが、改善できる部分は改善していかなければならない。
子育て環境について、帰る人は条件を見比べる。地元に戻りたい子はいのに、帰れていない。小さな子供たちが遊ぶ公園がない。地元で遊べる遊具がない。木もなくなる。体験しながら、危険を回避する術を学ぶことも必要。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
保育所は（2学年で）20人いて欲しいと思う。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
山内小学校の0Bで昔は学年30人前後いた。今はやっと3分の1。親の数も3倍いた。その頃はどうやって生活していたかと思うが、成り立っていた。その頃は地域に今の3倍の仕事があったということだ。その仕事はどこに行ってしまったのか。子どもも帰ってこない。高校までは地元で大部分がいるが、大学で出てしまう。卒業して就職するときに仕事の選択肢がない。別の町で就職し、家庭を持ち、いついてしまう。これを帰ってくるように呼びかける。何が必要かという仕事、生業が必要。	子どもの時のふるさと教育が帰ってくるきっかけにもなる。「地域計画」を作ろうとしているが、本当に出来るのかと思う。子どもを真ん中に置かなければならない。川北小学校がなくなるとき19人の児童の保護者で議論をしていた。今は地域でほとんど子どもを見ない。私立学校を作る動きが生まれている。出来るところをみんなで行っていく。
仕事がないことはない。仕事はある。地域の人になかなか来てくれないだけだ。以前、永末小で8人の子を複式で見ていた。（あれだけ人数が増えた理由の一つは）みのりの保育所が魅力だったのではないか。やり方次第ではないか？高野でも家の片付けが始まる。他所に山内のやり方を教えると言われるが、庄原をPRするために他地域にも広げる。地域で発想を考えると面白いことができる。やり方で未来は変わる。	
小学校がなくなると聞くと誰も帰りたがらなかったが、小学校が残し、リターンが増えた。就職もある。少しずつの積み重ねで変わる。	
農事組合法人をしている。5県サミットが島根で開催された時に参加した。東京大の先生の講演があり、地域課題をどうやって解決しているか、頑張っているところの事例を聞いた。農業を取り巻く状況は厳しい。赤字になるかならないかのところ。ほとんどの農業者は赤字覚悟。今は自由競争で米の値段は、日本で初めての農業法	フォレストワンが庄原に来る。山である程度稼げるようにしたい。森林所有者への意向調査では、28%は良く分からないと回答。38%が市にお願いしたいと回答している。 森林環境税1人1,000円の徴収が始まる。庄原市には1億5000万ほどが入るため、どう使うかの議論を執行者がしている。 国に頼る時代ではなくなっている。

人が立ち上がった 35 年前と比べ、半分の 5,000 円から 6,000 円。酪農家も大変。国の政策はいい加減だ。農業を取り巻く環境は悪い。 山内では農村 RMO（農村型地域運営組織）を立ち上げた。山内にはやる人がいる。厳しいと言って下を向いても良くはないと、取り組んでいる。	
市の方も、何かしら支援の取り組みをしてほしい。農業を続けていこうと思える施策、仕掛けを、1 つでも 2 つでもしてほしい。地域の活性化につなげたい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
農政が遅れていて、自給率はどんどん下がっている。広島市は肥料代の補助を市が出した。そのぐらいの気概でやらないといけない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
霞ヶ関では（農業政策は）何も出来ないから好き勝手にやれと投げられたように思った。（RMO について）これまでの農政は農家が儲けてはいけなかったと思われていたのではないかと。儲からないものを株式会社にしたらからといって儲からない。税金を投入して環境、食糧を守っている国もある。農家が儲かる仕組みを作らないといけない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
和歌山で害獣対策を学んだ。今は農村で生きられない。どこに行っても猪にやられる。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
（対策の先進地は）山の中でも電柵がいらないほど対策されている。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
（先進地では）害獣を捕るだけでなく、ジビエ、みかん、農産物の営業にも回っていた。平均 37 歳で、UI ターンで定住している。地域を若い人が守り、4 年で 8 割獣害が減ったとの話だった。地域以外の人もそこに肉を持ってくる。いい肉は高く買う。周りから肉がくる。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
くくりわなをしているメンバー、「山内獣害対策研究会」で、高齢化した田畑のサポート組織を考えている。この 3 年で基礎を作り、そこに若い人を引き込んでいく。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
高知には小水力発電を見に行った。風力発電もよくやっている。そのまま山内に適用にはならないが、何かやっていく。あちらでは風車で年間 1,000 世帯分の電気を作っていた。風力の実験をしてみたが、風力は足りなかった。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
獣害対策は各市町村でやっていたのを、これからは県がまとめるという話を聞いた。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
気温が高くなって、獣が死なくなっている。	昔の高野は電柵がなかったのが今はある。
豚コレラでの死亡率が高い。守るためにも猪を取らないといけない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

森づくり県民税では、余ったお金は森林の多いところに回していた。環境贈与税は人口だけでなく、森林面積で再分配はないのか？森づくり県民税は、道路から見えるところの整備だけやっている。	人口割の分配の多い横浜市では、譲与税を使うところがない。林野庁は使い道のリクエストをしてどんどん使って欲しいと言っている。市にリクエストをしているが、庄原市では2億は基金に積んでいる。
	再配分は、今はされていないが、今年の6月に国に再分配の要望を出している。
	基金に積んでいては、国に譲与税はいらないのかと言われてしまいかねない。
	山の境界が分からなくなっている。今のうちに意向調査と同時に境界明確化を進めねばならない。
県大の寮はそこまで傷んでいないのに無くされようとしている。生活が苦しい子どもたちの家賃1万2000円が3、4万に負担が増えてしまう。どう考えるか？4月からなのでもうすぐやらなければならない。	市もしっかり考えなければならない。
	市長は、県大との連携を深めたいと言っている。支援に対する意見は市長にも伝えている。
	地元の自治振興区では県大生を支える意識が薄いと感じる。なんとか出来ればと思っている。ファーマーズハンズの活動はコロナで下火になっていると感じる。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
希望の持てる町を作っていかなければならない。他所より1歩、2歩進めなければならない。今までの踏襲では潰れる。キラッと光ることをやっていかねばならない。	家賃を無料にし、住んでもらう代わりにお手伝いをしてもらうという形ができれば理想。
	中山間直接支払いも減ってきている。地域を元気にしたくて法人を作ったが、赤字をなくすどころでない。地域計画づくりでは、今後の担い手がいるかも分からない。その中で、農技大と、県大は地域の希望だ。市には農業のマッチングアプリを取り入れて欲しい。農業者と大学生のマッチングを進めたいと考えている。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 9 西城地域西城地区

参加者意見	議員意見
コンパクトシティの観点を盛り込んでいけばよいのではないかな。	都市計画の中で、西城地域は、西城病院を中心にまちづくりを行う計画を立てている。

NO. 10 西城地域八銚地区

参加者意見	議員意見
庄原市で待機児童がいるというのは事実か	担当課で確かめる。保育士がいらないのではないかな。保育所の民間委託によって給与が低くなったことも要因と考えられる。保育所の指定管理についてはかなり議論があった。行政の責任の持ち方が違い、組織が違う。

	画一的な保育よりも、独自性の発揮できる指定管理の体制が評価される場合もある。ただ、どこまでを行政が責任を取るのかが問われる場面もあるのではないかな。
行政区の役員数の見直しが必要である。これまでは出来ていた行事の実施が難しくなり、人間関係が築きにくくなってきた。敬老会も本来の意義が果たせていない。	
西城町は、福祉の関係は良く動いている。病院としあわせ館が併設され、地域包括ケアシステムは充実している。	
サロンの参加人数が減少し、17 人が 12 人になってきた。田舎には家と家との確執があって、困りごとを表に出すことは躊躇する傾向がある。	
	少子高齢化は全国どこも一緒である。自分自身が幸せという思いをもって過ごそうという気持ちも大切ではないかな。

NO. 11 東城地域小奴可地区

参加者意見	議員意見
島根第 2 原発に賛成した議員の意見を伺いたい。福島原発のこともあり、不安である。40 数万人が避難しなければならないような大事なこと。修正して出すなどの対応が出来なかったのか。	意見書の内容が思うものと違った。国や県に出す意見書は早目に出される時と直前に出される時があり、修正する時間が無い事もある。趣旨に賛同しても、内容に納得出来なければ賛同出来ない事もある。
高校統廃合について、県教委は定数をコロコロ変えている。高校は県の管轄だと理解しているが、市議会の教育民生常任委員会は少人数でもやっていく考えがあるのか。	教育民生常任委員会では、先日も少人数に対応するための職員配置基準の見直しへの意見書を提出した。子どもが減っても対応できる環境づくりをし、子ども、保護者、地域が選択出来る環境をつくりたいと思っている。

NO. 12 東城地域八幡地区

参加者意見	議員意見
地域おこし協力隊を、地域マネージャーみたいに自由度を上げてもらえればよいのではないかな？	知恵を出さないと住めないところになってしまう。みんなあきらめるのでは悲しい。知恵を絞ってやっていかなければ。

NO. 15 東城地域帝釈地区

参加者意見	議員意見
帝釈地域から東城中学校に通う路線バスに、朝は乗って行けるが、帰りは部活をしたら帰れるバスが無い。土日は行きも帰りもバスが無いので、保護者が送迎をしている。親は仕事を休み、ガソリン代も倍増している。MaaS になってバスのダイヤが 30 分早くなった。もし寮に入れても、夏休みは帰って来ることになり、親が部活などの送迎をしなければならない。中学校は義務教育なので出来る	MaaS のダイヤ改正等、教育民生常任委員会にて協議・確認。

限り通わせたいと思うが、通えないところに若い人は帰って来ないと思う。高齢者も中高生も意見を聞いて MaaS を走らせてほしい。	
MaaS がスタートしてから会議の場が全くない。社会実験と聞いているが、来年以降の話も全くない。継続してもらえるのか。	社会実験なので、今後どうなるか分からないが、データ集めだけにならないよう、協議していくべき。スクールバスについても地域によって運行方法が異なるので、今後どのようなかたちが良いのか協議していくことが必要だと思う。
東城高校には寮が無くなった。中学校の寮を高校生も使えるようにしたら良いのではないかと。寮に入るか入らないかは家庭の自由だが、通える環境にないのはおかしい。故郷があるから帰って来る。どの地域でも子どもたちが通えるように整備してから学校統合すべき。市、学校、事業者、どこに言えば改善されるのか分からない。	東城中学校の寮には3人くらい入っていると聞いている。これからは子ども中心の政策をしなければならないと思っている。議会も声を届けていく。

NO. 16 東城地域久代地区

参加者意見	議員意見
現在庄原市で人口減少が進んでいるが、どのようにとらえ、どのように対策しているのか？	長期総合計画の中に、目標を立てている。現状は予想、計画を下回っている。議会の中で質問した。答弁は少しずつ改善している。体制などが見え辛いという点は、議員からも意見があるので、議員の甘い所。
森づくり事業で、10 年維持管理があるが、集落がもつのか森林組合に頼んでもよいのかわからない。市民が使いやすい修正を議会で作ってほしい。（補助金）	森林環境譲与税を庄原市も年間 1 億 4 千万円もらっている。活用も考えている。現状は森林の移譲、移行について調べている。大きく環境が変わっているので、森林振興のやり方を考えていかないといけない。植林について、場所によって何を植えるのか等、長いスパンで考えた取り組みが全国的に言われている。

NO. 19 高野地域高野地区

参加者意見	議員意見
庄原市は相対的に中央を中心に考えてまちづくりしている。住宅もそう。それぞれの地域の公平感を持たせてほしい。周辺部にも目を向けて欲しい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
中学校の統廃合の話の時、どこに住んでも愛着心は一緒と言われたが本当だろうかと思った。ふるさとを思う気持ちは、そこに育ってこそそのものがある。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
スクールバスで子どもたちが出してしまうので、どこに子どもがいるかわからない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
9 年前には、協力隊 9 人中定住したのは 3 人だけだった。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
「いい移住」の番組をやっているが、庄原では、協力隊が何をし	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

ているか市長も知らないのではと感じる。	
---------------------	--

NO. 21 総領地域総領地区

参加者意見	議員意見
猪が多くて困る。駆除班に若い人が参加してくれないともたない。圃場整備した田んぼが荒れている。農地5年、10年後のアンケート調査がきているが、課題も多くあると感じる。 熊の状況はどうか？頭数などは確認されているのか。野生動物が人間のエリアに来ている。	人間の手によって植林で動物の食べ物を奪った。山林を良好な環境にしないといけない。山林所有者が手にあわない時は、市に渡すという方向になっている。木材の育成と野生動物の餌となるものを植えるなどの提案をしている。

8. その他（自由意見）

（1）井戸端スタイル

NO. 1 宮内自治会

参加者意見	議員意見
森林資源の利活用を考えてほしい。山の境の調査ができていない。また、管理も高齢者が多く難しい状況にある。 このような会の内容が執行部に伝わるよう情報共有してもらいたい。まちづくり基本、主役は市民でありたい。	森林環境譲与税を活かしていきたい。

NO. 2 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

参加者意見	議員意見
庄原市はお金がない。ばらまきは意味がない。なにかひとつに絞って一点突破しないと注目もされない。絞ってほしい。	
声を出すための情報がないから、考えることもできない。情報共有が原則。	
庄原市の行政の会議などに出席した際に知ったのだが、計画は業者に金を出して書いてもらっている。職員が汗をかいて作っていないとうまいかないのではないかな。他人が作ったものを執行していくので生まれるものがあるのか？	

NO. 7 堀田博幸（個人）

参加者意見	議員意見
私道を市道に格上げしてもらうことはできないのか。除雪や草刈りなどの負担が大きい。	市道に格上げするのはなかなか難しいと感じる。福祉道路という方法もある。
上谷は上水が通っていないので、ポーリングで水を確保している。水は生きていくのには絶対に必要なものである。市民は皆平等だというけれど上水が通っている場所と通っていない場所では不公	本村は高速道路の関係で道路公団が保障して水道を整備したが、水道を新しく整備すると莫大なお金が必要となるので現実的では

平感を感じる。水の問題があるこの辺りには若い人は住もうとは思わない。	ないと感じる。ボーリングの補助を拡充するなどの対策を考える必要がある。
水は生きていくためには必ず必要なものなので、水道は国の予算があるのではないかな。	水道は公営企業となり簡単には計画を作れなくなっている。庄原市も今後の水道代の高騰を防ぐために、広島県水道広域連合企業団の一員となったので、ハードルが高くなっている。ボーリングの市の負担割合を増やすように、要望を出す方が現実的と感じる。
井戸水はピロリ菌の問題もあり、浄水が無いこの地域では、胃がんのリスクと隣り合わせである。せめて胃がんの予防やピロリ菌検査などの補助を検討してほしい。	この件については市に伝えていく。
市道の落石防止ネットに穴が開いている場所がある。	この件については市に伝える。

NO. 8 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

参加者意見	議員意見
こんな機会があって良かった。会の周知をもっとしてほしい。	
地元の高校を卒業して、残りたくても就職は出る子もいる。	
田舎が大好き。田舎が面白い。自分自身がこうしていくことも大切ではないか。	
今日はとてもいい経験をした。市議も自分たちも思いは同じと思う。	
市民の自分達も行動をしていきたい。	
庄原市には、保・幼・小・中・高・大 があり、各教育機関は整っているが、県立の高校・大学をどうするのか大きな課題であり、発想の転換が必要である。	
住民の力もなえてきた中で、住民自治をどうするのか、どう育てるのか、まちづくりの単位をどうするのか。住民自治の遅れを取り戻すためには、住民も行政も危機感を持つべきである。	

NO. 9 庄原ライオンズクラブ

参加者意見	議員意見
太陽光を設置しても、所有者は都会に住んでいるので、積雪等で壊れても管理ができていないところが見受けられる。	
庄原の核となるのは、庄原 DMO であり、令和 9 年の丘陵公園民営化を見据えた施策の展開を進めていかなければならない。	

(2) 自治振興区

NO. 4 庄原地域峰田地区

参加者意見	議員意見
住んでいる家が古く、ブルーシートをかけて雨水を防いでいる。高齢でブルーシートを張れなくなったので出ていくしかないが、孤独死の問題で高齢者がアパートを借りることができない	高齢者のアパート契約は難しい。家屋の修繕の補助金はない。お答えが難しい、申し訳ない。
峰田自治振興区で地域マネージャーとして包括ケアの仕事をしているが、免許を返納した方や一人暮らしの女性等、一人暮らしで孤立している人が多い。ゴミステーションを調べて回ったが、遠い所では4～5キロもある。とても一人で出せる距離ではない。本人を車に同乗させてリサイクルプラザに持ち込みたいと言ったら違法だと言われた。他市町では可能な所もある。庄原市は人口減少で過疎になっている状況なので、臨機応変に対応してほしい。	出来ないことはないと思う。執行者と話し合いをして、回答させていただく。→高齢者福祉課が対応されることを確認。
庄原のゴミ袋は高い。他の自治体よりもとても高い。焼却炉の能力の差だと聞いたが本当か。	

NO. 9 西城地域西城地区

参加者意見	議員意見
木質バイオマスの問題について、今後どのような方向性で行くのか。誰であっても、過失はある。過失と犯罪は違うと思っている。議会も承認しているので、議会にも責任があるのではないかと。過失はゼロではないが犯罪者ではないという意見が議会から無いと、議会を疑う。	議会としては、特別委員会を作って、議員の責任についても議論した。裁判の時に、非常に長い時間をかけて、当時の議会の質問ややり取りなど何から何まで全て調べて今回の判決に至っている。議会に道義的責任はあっていると感じている

NO. 10 西城地域八鋒地区

参加者意見	議員意見
これ迄の話し合いの中では、現状維持の考え方に思える。少しでも明るい将来が見えるよう若者が来れるような仕組みづくりを、国・県に上げてほしい。国会議員に上げて欲しい。	努力していきたい。

NO. 14 東城地域東城地区

参加者意見	議員意見
東城の自治振興計画の説明を受けたが、今後の人口動態を見ても10年持たないのではないかと。自治振興計画を廃止して昔の常会に戻した方が良くと思う。実際に自治会の解散の話もある。こういうところにお金を使うよりも、少子化対策にしっかりお金を使うようにしてもらいたい。ボランティアの活動であり、身分保障もない状況で裁判になった時などのリスクが高すぎる。	地域包括ケアなどの問題は大事なことだと思うが、一人暮らしが増えると、責任が伴うことが増えてくる。そこに自分の命を懸けるかといえできない。地域包括ケアシステムは国が主導して進める事業なのでそれを地元のボランティアが担うのは荷が重すぎると感じる。

災害時の避難誘導や生存確認、高齢化社会における認知症徘徊の発見、オンライン診療の推進、事務作業の効率化、ペーパーレス化、また若い方に自治振興だよりなどの広報を見てもらうためにも、デジタル化を進めるべきと考える。Wi-Fi 環境の整備やインターネットや SNS を使える人を増やしていくことが大切である。人口減少が著しい地域こそ DX を進める必要がある。	Wi-Fi 環境は整備していかなければならないと感じている。国が進める DX の考え方を元に市でも DX の方向に進んでいる。今はラインで市の情報などが受け取れるようになっているし、災害や道路の欠損箇所などの報告もラインでできるようになっている。企画建設常任委員会で広報誌のデジタル化などについて話をしているところである。今はまだ、紙とデジタルの両方やらなければならない時期であるが、今後ネットを使える人がさらに多くなると、変わってくるかもしれない。
--	--

NO. 16 東城地域久代地区

参加者意見	議員意見
学校について、統廃合はどのような状況か。また、学校のレベルアップについて何とかならないのか。高校は地元に行かせるなど、地元で学び育つと帰ってきやすいのではないか。高校の基準が変わり、条件を付けたものがあつたが、議会で地域性というところを考えていただき、やってほしい。	庄原市で学ぶ魅力化や個別最適など、突き詰めていくことが必要。

NO. 18 口和地域口和地区

参加者意見	議員意見
農業問題の一般質問をする議員がいないように感じる。	9 月に一般質問を行った。庄原市の農業はもう 10 年すれば危機的状況になる。庄原市では昨年新規就農者は 2 名だった。基金が積みあがっているの、基金を使って農業を再編するようにしていくべきと考える。一般質問は自分の得意分野の質問が多くなっているの、市民の方のご意見を伺う中で様々な分野で一般質問を行っていくように心がける。
地域は団塊の世代で支えられている。あと 5～6 年しかもたない。法人自体も後継者が少ない状況にある。議員さんで市の執行者へ届けてほしい。	企画建設常任委員会では深い話をしている。執行者へ届ける。
高齢化率が上がって農業を守ってきた人がいなくなっているの、外から入ってきた人に期待するしかない。今までやってきた農業技術を外から来た人に伝承し事業承継を行う事も必要である。	庄原市のある地域で農家さんが農地と技術を継承した事例もあるが、マッチングが難しい場合が多いので、ニーズがあるならマッチングさせるような対策が必要だと感じる。
農業施設整備事業の補助率が下がっている。全体の枠を増やしてほしい。	企画建設常任委員会ですっかり議論して市に届けていきたい。
庄原市の教育問題はどうか。	不登校児童の増加が問題だと感じている。それぞれ学校に行けない原因は違うが、学校に行けなくても学習ができるように県が取り組みを進めている。
三次市には中高一貫校が開設されるなどしており、庄原市との教育格差が広がっていると感じる。川北に自由学校を作る話もあるが	現在準備が進んでおり、寮はどうするのかというような話まで進んでいることは聞いている。今までの庄原市の教育とは全く違った

進捗状況はどうか。そのような学校ができるというのは庄原市の教育の底上げにつながると考える。	教育という事で注目されている。庄原市の教育の一つの選択肢として、また庄原市の教育の底上げにつながると思う。 庄原市では複式学級は、切磋琢磨できないとか、多様な意見に触れにくいなどの理由で統廃合の理由にしている。広島大学付属東雲小学校でも複式学級を取り入れ人気を得るなど、複式学級の重要性も分かってきている。庄原での教育は複式学級があって良いと思うし、庄原の教育の特徴の一つであると感じる。
庄原市の教育は、学力テスト重視という印象を受ける。そうではなくて、地域に根差した教育を行うべきと感じる。実際それぞれの中学校や小学校へ行って議員本人の目で確かめてほしい。	やはりここに住んでいて良かった、地元に誇りを持てるような子供を育てるには、地元に根差した教育は必要である。積極的に学校に出向いていきたい。
庄原、西城、東城を中心にまちづくりが進められると聞いているが他の地域はどうなるのか。	国が進めるコンパクトシティーの一環であり、庄原、西城、東城に主要なものを集めるという考え方ではあるが、その他の地域はどうなってもよいというものではない。
外国人の移住についてどのように感じているのか。	県立広島大学庄原キャンパスや市役所、一般企業に多くの外国人の方がいらっしゃるのには認識している。小学校の保護者や、生徒、地域にいらっしゃる外国人の方との交流が少ないと感じているので交流を増やしていきたい。 市役所の手続きなども、外国人の方には、分かりにくく、面倒に思われるかもしれないので変えていかなければならないと感じる。また外国の方の不便なことや困っていることに対してのサポート体制を整えていくことが必要と感じる。

NO. 20 比和地域比和地区

参加者意見	議員意見
比和に医療機関がない。命を守ってもらわないといけない。	庄原市には無医地区が 23 地区ある。どのようにカバーするのが課題である。
山の境界をはっきりさせないと。	
庄原市の耕作放棄地の調査状況は。	農業委員会では調査が行われている。また、農業委員会から議員との話し合いの場を設けたいとの要請が来ており、調整中である。
中学校の統廃合は凍結という形になっているが、今後の状況はどうか。小学校の保護者が不安に思っている。統廃合が分かれば引越そうという人もいるので、今後の展望を教えて欲しい。住民が安心して教育、子育てをする環境を整えるのが大切である。	現状は凍結と言ってよいと考えるが、その通りである。委員会でも今後の学校体制について継続して話をしている。
いわゆるインボイス制度により、振興区にも税金がかかるようになった。事業、交付金などすべてをひっくり返して 1,000 万を超えると課税対象になる。事務処理が非常に困難になった。税務署も調査をすると言っていたので、運営の仕方を含めて新しい方針が必要なのではないか。振興区は利益がないので難しい。	

NO. 21 総領地域総領地区

参加者意見	議員意見
地元に伝わる文化の継承や環境保全には、学校教育と共に地域力を生かした取り組みが重要である。現在、小・中学生と手すき和紙作りや、節分草を地域の宝として守ったり、野菜作り、みそ・こんにゃく作りなど世代間交流を深めている。地元の祭りには、10～20代の子ども達が帰ってきて盛り上げてくれた。地域の教育力の活用、人づくりを通して総領を活気づかせていく。	

9. 議会に対する意見・要望

(1) 井戸端スタイル

NO. 1 宮内自治会

参加者意見	議員意見
YouTube で本会議等をみているが、一般質問で問うなどし、木山市政 10 年間の検証も出してもらいたい。議員には、本会議で、答弁者が課長ではなく、それ以上の職責者が答弁する必要があるような質問をしてほしい。	努力していきたい。
課長が答弁するような質問は委員会で行い、本会議では市の将来展望や方向性に関わるような一般質問に努めてほしい。	努力していきたい。
このように直接対話できるような取り組みを執行部にも情報共有されたい。	努力していきたい。

NO. 2 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

参加者意見	議員意見
議員の質問の中身を直し、市長でないと答えられない質問をしてほしい。	
傍聴者が満員になるような質問してほしい。	
本会議は部長以上に限定などの思い切った改革をしてほしい。	
声を出すための情報がないから、考えることもできない。情報共有が原則。	
市民の声が届くような仕組みを作してほしい。思いのある市民が参画できるしくみづくりをしてほしい。	

NO. 3 東三区教育推進協議会

参加者意見	議員意見
子どもたちが楽しく安全に過ごすためにどう環境を整えるか考えて欲しい。	永末小学校、児童クラブについて、教育民生常任委員会で継続調査中。

NO. 4 国際ソロプチミスト庄原

参加者意見	議員意見
研修などで学んできたことを市の施策に反映できるように努力してほしい。	
議員がイベントや行事に出席する機会が少ないと思う。その場で市民としっかり話をすることが大切なのではないか。	

NO. 6 やまびこ会

参加者意見	議員意見
小規模校には小規模校の良さがある。三次の学校を受験する子もあり、三次の学校を受験する子もあり、地域は何をしなければならないのか、市も議員も一緒に考えて欲しい。	

(2) 自治振興区

NO. 1 庄原地域庄原地区

参加者意見	議員意見
永末小学校の問題については、数年前から問題提起してきた。議論は出尽くしている。もう次のステップへ行くべきだ。	
永末小学校の問題については、井戸端会議でもいろんな意見が出た。共有して具体的な解決を示してもらいたい。	

NO. 3 庄原地域本村地区

参加者意見	議員意見
子どもに対して、道路整備、水道についても庄原市の行政課題が大きい。対応が遅れている。三次市への転出を誘導しているようにも思える。逆に三次から来てもらえるようにして欲しい。市民と語る会で出た意見について、出来ないなら出来ない理由を報告して欲しい。何もしてもらえないと感じる。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 4 庄原地域峰田地区

参加者意見	議員意見
市議会議員がいない地区。選挙の前には来られるが、常に来る人はいない。基本は市民の声だと思う。こうやって会を設けてもらうのもよいが、来たくても来られない人もいたので、そういったところを拾ってほしい。話を聞きに行っている姿を見せて欲しい。そうしたら、行ってみようかとなっていくと思う。	

学校通学路の看板について、道路の幅が狭い所を車がスピード出して走っている。学童歩道に看板を出してほしいといろいろな所に要請したが、一つもしてくれない（事故の時の賠償金額も変わってくる）。県を通して、２年後に看板設置につながった。こういった意見交換の場を数多く広げていって欲しい。	
--	--

NO. 5 庄原地域敷信地区

参加者意見	議員意見
議会活動に関する行政情報を積極的・豊富に市民周知することが必要。	
議員定数を決める基準は、市の人口規模とするのが妥当である。	現在、特別委員会に於いて検討中である。
議員は市政全体を包括的に調査点検監視する任務があるが、地域の諸課題の解決のために出身地域との連携をも重視して活動すべきである。	現在、特別委員会に於いて検討中である。
議員報酬については、現在の額ではとても議員になろうと考える市民はいないのではないか。とりわけ、３０歳～４０歳の若い世代では生活費に加えて子供の教育費もある。報酬額についてはこれらの点を踏まえたものにすることが求められる。	現在、特別委員会に於いて検討中である。
議員定数を検討することは重要だが、議員定数と議員活動の量とは比例するものではない点がある。議員活動をより活発化することを意識的に進めることが議会に求められるのではないかな。	現在、特別委員会に於いて検討中である。
議員報酬や定数を検討することは必要だが、議員活動が日常的に可視化されていない。	現在、特別委員会に於いて検討中である。
「議会だより」の編集が「一辺倒」的になっている。マンネリ化している。工夫を。	現在、特別委員会に於いて検討中である。
議会に農業問題に関する議論が不足している。とりわけ、農業従事者にとって猪などの有害鳥獣対策は喫緊の課題であり、議会もこの領域に関してより積極的な関わりが必要である。	

NO. 6 庄原地域東地区

参加者意見	議員意見
議員は責任と自信をもって庄原市の課題に取り組んでもらいたい。	

NO. 7 庄原地域山内地区

参加者意見	議員意見
議会への溝があるのをアンケートから感じる。頼りにもするが、告知端末で声を聴かせてほしい。ネットが見られない人が、告知端末で議会で継が聞けるようになれば、もっと身近になる。	将来的にあり得るかも。
	実現のためには、人員確保など課題があるかもしれない。
	嬉しい提案。どうしたら出来るか探りたい。議会事務局と協議する。
	議員は何しているのかと言われる。井戸端スタイルで、何人が集まれば議員が外向いてお話しさせていただく。声をかけてほしい。皆さんと話をすることが大事。学校にも出向きたい。全ての面でお話しさせてもらいたい。女性の方のお話も聞きたい。
三次市はテーマに合わせて、一般質問の動画をチョイス出来る。庄原でも、テーマによって動画をパッと選べるようにしてほしい。	議会事務局と協議する。
思っていることをどう実現させるかが議員の仕事。人口が増えているところは、子育て教育環境が充実している。過去の仕事の継続だけではいけない。予算の組み替えも必要。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
県大生を支える手立てを考えてほしい。	市長も県大との連携を強化すると言っている。具現化について注視していく。

NO. 10 西城地域八銚地区

参加者意見	議員意見
J Rにしても西城紫水高校にしても、議員としてしっかり動いてもらいたい。	存続に向けて取り組んでいる。

NO. 11 東城地域小奴可地区

参加者意見	議員意見
市民と語る会で意見要望を言ってから回答が遅い、解決しないにしても1カ月以内に何らかの動きや報告が欲しい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
バイオマスの時のように、議会の責任は一切無かった、知らされなかった、では済まない。市長が間違った方向に行ったら議会が止めないといけないと思う。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
議員は、もっと地域に出て話を聞く機会を設けるべきだ。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 13 東城地域田森地区

参加者意見	議員意見
自治振興区の予算が減額されている。先日実施した行事も、創意工夫し大成功であった。人口の減少はあっても活動は頑張っている。人口減を予算の減額に即繋げないで欲しい。	企画建設常任委員会に於いて、現在検討中である。検討内容について申し上げる。 1. 自治振興区振興交付金のあり方（人口一人当たりの交付金額に差がある）

22の自治振興区があるが、一人当たりの差が生じている。6,000円から田森のように3,600円のところもある。	2, 役員の後継者不足、固定化、高齢化、事務職員の処遇改善 3, 行政と自治振興区の役割分担の見直し（業務の増加と負担感）
ぜひ結果を出して欲しい。	

NO. 15 東城地域帝釈地区

参加者意見	議員意見
道路陳情などの要望をしても、議会は聞くだけで直接動いてくれない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
各部署に民間のプロフェッショナルの人材を配置できるよう提案してはどうか。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 16 東城地域久代地区

参加者意見	議員意見
この市民と語る会の日程について、告知放送を利用して周知して欲しい。	

NO. 18 口和地域口和地区

参加者意見	議員意見
議員はもっと自治振興区など地域に顔を出して、話を聞くべきだ。	
議員定数、議員報酬に関しては、しっかりと特別委員会で議論してほしい。	

NO. 20 比和地域比和地区

参加者意見	議員意見
以前の報告会では委員会の説明をされていた。そのような時間があってもよいのではないか。	

NO. 21 総領地域総領地区

参加者意見	議員意見
議会だよりに出ているマスク姿の議員では、誰か分からない。県議会も同じ。	臨場感を出す意味でそのままとしていたが検討していく。
要望した内容の結果が知りたい。（地域交通・鳥獣対策・市営住宅対策）	聞きっぱなしではなく、フィードバックが必要であると思う。
総領まで議員の皆さん足を運んで下さい。	

10. 執行者に対する意見・要望

(1) 井戸端スタイル

NO. 1 宮内自治会

参加者意見	議員意見
将来の庄原市を市民に示してほしい。	
人工林だけでなく自然林も含む山の管理や森林資源の活用について検討してほしい。	
宮内町に所在する希少な佐田谷・佐田峠墳墓群を活かした観光施策を検討してほしい。	

NO. 2 庄原の人口問題を考える民間会議 ひと部会

参加者意見	議員意見
木山市政 10 年の総括を聞きたい。	
声を出すための情報が無いから、考えることもできない。情報共有が原則。	
市民の声が届くような仕組みを作してほしい。思いのある市民が参画できるしくみづくりを。	
庄原市がより良い意味で内向きな施策をした方がよい。今ここにいる市民が幸せに暮らしていけるところから、実施すべき。	

NO. 3 東三区教育推進協議会

参加者意見	議員意見
子どもたちが楽しく安全に過ごすためにどう環境を整えるか考えて欲しい。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
教育現場の点検をしてほしい。	教育民生常任委員会にて所管事務調査中。
児童福祉課にも、もっと地域の声を聞いてほしい。	関係部署に伝える。
僻地保育所の「僻地」を外せないか？	教育民生常任委員会にて確認。
こういった場に執行部にも来てもらいたい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 4 国際ソロプチミスト庄原

参加者意見	議員意見
市長がイベントや行事に顔を出すことが少ないので、市長にイベントに出てくるように伝えてほしい。	

NO. 6 やまびこ会

参加者意見	議員意見
合併時の旧町基金の使途、合併基本計画（新市建設計画）の進捗状況を示して欲しい。	
比和だけ診療所が無い。すぐにでも診療所を始めて欲しい。難しいのならば交通手段のない高齢者の病院への送迎をして欲しい。	
個人医院にも財政補助や人員確保してもらいたい。個人医院にアンケートをとってもらいたい。	
比和の活性化のために地域おこし協力隊を要望する。	

NO. 9 庄原ライオンズクラブ

参加者意見	議員意見
休耕田や耕作放棄地が増えている。太陽光発電など転用へ規制改革してほしい。	
共有林 200ha の管理ができない。市の財産にしてもらえないか。	
邑南町のような、エネルギーの地産地消はできないか。設備投資しても元が取れなければ、中国電力から買う方が良いとならないよう、蓄電池の設備に補助はないのか。	
人口の減少で、マーケットの縮小が一番怖い。総領地域のように買い物ができない地域が生まれる。行政としても対策を考えてほしい。	
庄原市補助金一覧を配布してほしい。	
外国からの労働者が増えてきているし、いないと経済が停滞するので、雇用促進住宅の貸し出しを緩和してほしい。	
森林の境界明確化を早く進めてほしい。	

（２）自治振興区

NO. 1 庄原地域庄原地区

参加者意見	議員意見
児童クラブ、過密状態をどうするのか。	議会としては、繰り返し改善が必要と言っている。
永末小学校を訪問した。環境が悪い。今いる子供の学ぶ権利を考えてみると改善が必要である。	
永末小学校児童数の推計が減る根拠と実績が違うのなら、その違いを分析するべきではないか。	

NO. 3 庄原地域本村地区

参加者意見	議員意見
身体障がい者連合会で、車いすが入るバスを市でつくって頂けないかという話があった。脳梗塞で半身不随や足が不自由になった方々も、ひとりでもふたりでも行事参加出来れば元気が出ると思う。年に3回くらい、30人程度で動くときに利用したい。	安心バスタクシーや障がい者手帳交付者へのガソリン券・タクシー券の配布等もあるが、団体での利用であれば、市の保有だけでなく、近隣市町に借りるとか共有するなど、事業者の取得や路線バスの対応も含めて何か方法が無いか模索する。→社会福祉課に民間事業者で所有されているバスは高速道路に乗れないため今後研究が必要であることを確認。
高齢者の草刈り機使用時の転倒事故など心配。高齢者の皆さんも苦勞されている。高齢化で耕作放棄地も増えており、営農組合で対応しているが、追いつかない。自走の草刈機が省力化も図れて良いと思うが、高額なので個人で購入するには難しい。市の補助が出来ないか。	多面的の交付金を活用し、集落で試験的にドローンを購入されたところがある。使い勝手は良く、購入するのは良いが、管理が問題。若者が何人かで管理しなければ誰でも出来るものではないし、トラブルにもなりかねない。
県道の三次に向かう実留線が、雪が降れば日が当たらず、凍結して事故になるので、大変危ない。尾道松江道に向かうにも重要な路線なので、早急に対応して欲しい。	→建設課に県道改良工事で予算がついているが、災害復旧優先で事業を進めているため、業者が対応できない状態であることを確認。
農業委員会の受託作業賃金等ホームページの更新を迅速にして欲しい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
毎年言っている水の問題だけは早く解決して欲しい。庄原市全体の問題。雪が降っても根雪にはならない昨今、井戸が枯れるところも出ている。ボーリングに補助があるが、そういう問題ではない。	→個人負担が大きくてできない状況であると水道課に確認。

NO. 4 庄原地域峰田地区

参加者意見	議員意見
電柵をしたら補助金が出ると聞いて、領収書を持って行ったが、4月1日以降の領収書でないと受付できないと言われた。一年間を通して対応してほしい。	

NO. 5 庄原地域敷信地区

参加者意見	議員意見
市政のデジタル化推進について時代の変化に合わせてデジタル化を進めることは国としても行っており理解できるが、市民の中には、高齢者やデジタル化に対応できない人もいるため、それらに配慮した行政施策を検討してほしい。具体的にはスマートフォン教室の開催、いざなぎカードを使いづらい高齢者への対策、変更はされたがスマートフォン等によるワクチン接種の申し込み等である。	
庄原市は県立大学を市内に誘致したことをもっと積極的に活かす必要がある。現在の状況は県立大学と庄原市政との連携が少なくなっている感がある。	

庄原市は「暗い」という思いがある。街灯をもっと設置した「明るい庄原」をめざしてほしい。	
市職員がもっと地域に出ていき市民の疑問、要望に対応する。「何でも相談課」という部署を開設して住みよい地域の創造に努力すべきではないか。	
庄原ファンクラブの創設があったが、会員をより多く獲得するためには、庄原市内に点在する歴史的な遺跡、文化財など他地域にはない価値を持つものをもっと周知・紹介することも必要ではないか。庄原市の風光明媚な自然環境の紹介と合わせて検討されることを望む。また、現在住んでいる市民がファンになることを優先し、その人が市外の人を呼び込むことが大切と思う。	

NO. 7 庄原地域山内地区

参加者意見	議員意見
人口問題は1つの課だけでなく、すべての課で連携して取り組んでほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
空き家対策に、行政が本気で力を入れ充実させてほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
農業を続けていこうと思える施策を1つでも2つでもしてほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
なぜ遠くに行って害獣を捕ってはいけなくなったのか？捕れるようにしてほしい。	猟友会からの声もある。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
猟友会が文句を言っても、市が補助金を出しているのだから、文句は言えないのではないかな？ 猟友会が鹿を取れば1万円。私たちがとってもお金をもらえない。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 8 庄原地域北地区

参加者意見	議員意見
庄原市が自治振興区をどのように位置づけてやっていくのか？安易に目先だけをみてやっているのか？それとも、本気になって人口減少など、考えてやっているのか？市からやろうやろうと言われるが、見えてこない。	
周辺の状況も草も伸びるなど、人が来てほしいように思えない。庄原市が学生にとって学びやすい、住みやすい状況にやっとならないといけないと思う。 庄原市へ活かせるような県立広島大学庄原キャンパスの学部、学科をつくるのが人口増へつながるのではないかな？	

NO. 10 西城地域八鋒地区

参加者意見	議員意見
どの課に行っても暗い感じがする。トップの責任もあるのでは。	
市役所の職員は、よく中途退職すると聞くと、人材の確保と逆行しているのではないかと。	

NO. 11 東城地域小奴可地区

参加者意見	議員意見
小奴可の地域は救急車を呼んで 30 分以上かかる。道路整備を急いでもらうよう県に要望し、救急車の大きさも車両が入れない道もあり、問題だと思う。市民ひとりひとりがどこに住んでも同じように生活が出来る環境にして頂きたい。	救急時対応の道路整備を早急にしていただきたい。今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
自治振興区の事務局長、事務職員は報酬改善すべき。ほぼ 24 時間拘束された生活をしており、10 年 20 年勤められる方もいる。市の職員の処遇と比べてどうか。役所の仕事を受けてもらっているのに、こんな処遇で良いのか。働いてもらおうと思うなら処遇を考えて欲しい。	事務職員処遇改善要望について、企画建設常任委員会にて所管事務調査中。
新市建設計画があるのに、何がどれだけ出来ているのか分からない。道路の問題はずっと言っているのに何も改善されないのはなぜか。	議会としても、新市建設計画の進捗については注視している。しかし、災害復旧優先で事業が進められており、普通建設事業は令和 7 年度以降となる。

NO. 12 東城地域八幡地区

参加者意見	議員意見
市民タクシーの条件緩和。	
市民タクシーの対象地域が限定的すぎる。	
市の作成された地域公共交通計画の中身が実際にできるのか？今の実状を出て歩いて聞いてほしい。現状に合わせてやって欲しい。自治振興区に聞くだけではないリスニングを。	

NO. 13 東城地域田森地区

参加者意見	議員意見
イノシシの駆除の強化を考えて欲しい。以前より頭数が増えている。	
男尊女卑の傾向の強い地域において、正しい性教育を望む。インターネットでしか情報が得られていない	
特別な支援を要する子ども達の教育環境の充実を。	

NO. 14 東城地域東城地区

参加者意見	議員意見
災害時の避難について、指定された避難所が危険な橋を渡っていかなければならない。橋を上げるか、川底をすくうかしないと危険であるので、市に要望書を出している。	承ったので市に伝えておく。
庄原市のホームページが分かりにくい	

NO. 15 東城地域帝釈地区

参加者意見	議員意見
林業振興プランの改善。林道・作業道への助成をして欲しい。森林環境譲与税の使途について、具体的な施策を示して欲しい。	森林環境譲与税での使途について、企画建設常任委員会にて所管事務調査中。
林業に対するビジョンを示して欲しい。庄原市として 10 年後にどうしていくのか。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
MaaS によるバスの運行時刻を高齢者も中高生もみんなが使えるよう早急に改善して欲しい。	MaaS のダイヤ改正要望について、教育民生常任委員会にて協議・確認。

NO. 16 東城地域久代地区

参加者意見	議員意見
東城は 1 月末で閉めるクリニックがある。企業誘致も、土地は完売しているが、太陽光や草地になっている。庄原市でも積極的に企業誘致をしてほしい。	
何が重要なのか考えて予算執行をしてほしい。	

NO. 17 東城地域新坂地区

参加者意見	議員意見
R4 年の重要事項の中で示された、新坂自治振興センターへのアクセス道については、実施計画にありながら、市民に約束した年度には実施されなかった。R5 年度も災害復旧工事が遅れているので出来ない。来年度についても難しいと言われた。5 年も 6 年も伸ばしている事業である。R6 年には着手だけはして欲しい。重要な路線である。又、大正 10 年、中国電力がダムをつくり、電源立地助成金が毎年 600 万円（市全体）入っている。本来、立地のある周辺の整備予算として使われるものである。アクセス道に優先的に使って欲しい。	
当地域から、神龍湖迄の道のりは草が茂り、観光客のイメージも悪いのではないかと。観光シーズンには特に美化作業を徹底して欲しい。	

NO. 18 口和地域口和地区

参加者意見	議員意見
市役所の本庁に行くのと職員からの挨拶が無い。トップが挨拶をしないからではないか。もっと明るく挨拶をしてほしい。	

NO. 19 高野地域高野地区

参加者意見	議員意見
(新しい取り組みを始めるには)市の職員が多忙過ぎる。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
水がなくて人が住めない問題を何とかしてほしい。	以前、70戸の集落で基盤整備の時に水道を引いた。その際は水田の直接支払い制度を使った。上水道の計画について企画建設常任委員会に送付。
使わない市営住宅を放置しているなら、その管理費を回してほしい。	今はこれという住宅政策がない。市営住宅整備要望を企画建設常任委員会に送付。
各地域にお試し住宅をつくってほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
周辺部にも目を向けた、公平性のあるまちづくりをしてほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
各課の職員さんの名前が出されなくなった。名前が出ない、顔が出ない、誰に相談していいかわからない。個人情報も分かるが、市民へのサービスとしては困る。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
各課の職員名簿を復活させてほしい。自治振興区に名簿も来ないのでは連携もしづらい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
市役所本庁の幹部職員にも、もっと地域に出て来て現状を知ってもらいたい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
住みやすいまちづくりとは何かの説明がほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
もっと住民に寄り添った仕事をしてほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
協力隊を地域に投げっぱなしではなく、サポートしてほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。
交付金申請書・報告書を紙ベースだけでなく、データにもしてほしい。	今後の議員・議会活動の参考にさせていただく。

NO. 20 比和地域比和地区

参加者意見	議員意見
人事の際はプレゼンテーションをするなど、今以上に人を見極めてほしい。	

NO. 21 総領地域総領地区

参加者意見	議員意見
狩猟免許の講習など農閑期に行ってもらいたい。	要望していく。
市長、副市長に面会を求めたが会ってもらえなかった。どのようにしたらよいか？	
地域交通・鳥獣対策・市営住宅対策・地域の教育力の醸成に力を入れてほしい。	

11. 市民と語る会の検証結果

(1) 開催会場の設定数について

【実施状況】

- ①井戸端スタイル 9件
- ②自治振興区 21会場（庄原8・西城2・東城7・口和1・高野1・比和1・総領1）

検証結果

- 令和3年度、4年度と団体からの申込が各1件に留まっていたが、今年度より手上げ方式として、新たに井戸端スタイルと銘打ち実施した結果、9件の申し込みがあり、アンケート結果も非常に高評価であった。次年度も継続の方向で検討する。
- 自治振興区21会場を設定し、全地域で開催することができた。しかし、参加状況等が地域によりバラつきや、特定の役員の方が動員で参加されている状況もあり、次年度の実施方法について、議会運営委員会、議員全員協議会で検討する。

(2) 開催時期等について

【実施状況】

①井戸端スタイル

《開催結果》 10月：4件、1月：4件、2月：1件

※3月・6月・9月・12月の定例会及び11月（自治振興区単位の実施月）以外の期間で受付

《実施時間》 昼夜を問わず2時間以内

《日程調整》 申請者の実施希望日の2カ月前に申し込いただき、班の代表者と申請した団体等の代表者で協議し決定

②自治振興区

《開催回数》 年1回

《開催時期》 11月2日～11月17日（9月定例会終了後で受付）

《実施時間》 平日を基本に昼夜を問わず2時間以内

《日程調整》 班の代表者と自治振興区の代表者で協議し決定

検証結果

- 井戸端スタイルについては、対応期間を広く設定したことで申し込みしやすい状況を確認できた。次年度も、同様に多くの申し込みが可能な状況を検討する。
- 自治振興区については、昨年と同様に開催時期を11月に設定し取り組み、農閑期で災害等もなく適切な時期での開催であった。平日を基本に昼夜を問わず2時間以内としたが、自治振興区との協議によりこれまで通り平日夜間の開催となった。

(3) 実施内容等について

【実施状況】

①井戸端スタイル

- ・意見交換テーマは原則申請時に希望された内容で実施
- ・参加者を対象にアンケートを実施

②自治振興区

- ・意見交換テーマは班の代表者と自治振興区の代表者で会場毎に協議し決定
- ・あらかじめ共通テーマを2テーマ設定
- ・参加者を対象にアンケートを実施

検証結果

- 井戸端スタイルについては、申請者が希望するテーマにより意見交換を行ったため、非常に活発に意見交換が行われた。アンケートについても、非常に高評価であり、取り組みの継続を望む意見が多くみられた。
- 自治振興区については、独自のテーマを設定された会場と事前に設定した共通テーマを選択された会場とに分かれた。アンケートの結果から、継続を望むものも多くあったが、動員等で参加をされている状況も見られた。また、前年度に発言したことに対する返答がされていないとの意見があり、意見交換を行った後、聞いただけにならないよう、対応した議員が確実にフィードバックについて対応することとした。
- アンケートについては、実施結果を客観的に判断できるツールであるため、次年度以降も引き続き実施する。

(4) 班編成について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・議長を含む5人単位で4班編成
- ・自治振興区全21会場を1班が6会場、2～4班は5会場担当
- ・井戸端スタイルは申込数に応じ、2班から順に担当

検証結果

- 体調不良等で欠席せざるを得なかった議員もあったが、5人体制で編成していたため、欠員が生じて

も運営、進行に支障をきたすことなく対応できた。また、各常任委員会から必ず1名班に加わるよう、昨年同様常任委員会ごとにくじ引きにより班編成を行い、市民の方から出された様々な意見に対応することができた。一部、地元出身議員に対応してほしいとの意見もあったが、出身議員がいない地域もあり、特定の議員に対応が集中することがないように、班編成については、これまで通り常任委員会を基本とした対応とする。

(5) 運営等について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・役割分担は各班で決定し、記録は班員（記録者）による要点記録とする
- ・時間配分は2時間以内とし、各班で時間配分を決定
- ・進行について、井戸端スタイルは原則申請者の進行により実施
- ・進行について、自治振興区は次第により次のとおり実施
受付（アンケート配布）→開会（挨拶）→趣旨説明等→意見交換・懇談→閉会（挨拶）
- ・配布資料は各班で準備（共通テーマ分については、班長会議によりすり合わせを行い同一の資料で対応）

検証結果

- 役割分担、時間配分は各班において決定し、対応した。記録に基づく報告は、記録者が作成後、班長に提出し、班内で内容を確認したものを、実施日から1週間以内に事務局へ提出することとしたが、概ねスムーズに対応できた。
- 配布資料については各班で対応することとし、レジュメ及び資料の印刷は、班長から必要部数の報告を受け事務局にて行った。また、共通テーマに関するものについては、班ごとに異なる資料とならないよう、班長・事務局間にて事前に調整し、同一の資料を準備した。昨年度からの課題として、配布資料がなかった会場の参加者から、「資料がなく内容が分かりにくい」という意見があったが、今年度は事前に班長・事務局が連携し、資料調整を行ったことでそのような意見は見られなかった。
- 会場レイアウトについては、教室形式の会場が多かったが、会場や参加人数等の状況により口の字形で行った会場もあり、何れの形式でも大きな課題はあげられていないため、今後も状況に応じ臨機応変に対応する。

(6) 周知方法について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・行政文書（井戸端スタイル8/4発行、自治振興区10/20発行 全世帯に開催チラシを配布）
- ・住民告知放送、市議会ホームページへの掲載
- ・議員の積極的な働きかけ等

検証結果

- 行政文書によるチラシ各戸配布、住民告知放送、市議会ホームページへの掲載のほか、各議員から地域に出向いた際に案内することなどで周知を図った。一部の会場で、住民告知放送による情報周知を

するよう求めるものがあり、行政文書によるチラシ配布開始日のタイミングで、市内全域に向け夕方と朝に一度ずつ放送したが、次年度に向け放送回数を増やす必要性の有無について検討する。

- その他、他の有効な周知方法について随時検討し、より良い方法を検討する。

（７）災害等による開催可否の対応について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・ 災害等による開催可否の判断は開催時間の２時間前に決定するとしていたが、該当なし
- ・ 延期、中止等の対応をあらかじめ調整

検証結果

- 今年度は、開催の可否について判断が必要となる場面はなかったが、今後も、事前に申込代表者の方や自治振興区と災害等の状況の際の対応を決定し、共有しておくことで、いざという時に混乱なく対応ができるよう調整する。

（８）報告及び公表について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・ 実施内容を、議員全員協議会において班の代表者より報告し、議員間で情報共有及び意見交換を実施
- ・ 成果、効果及び今後の課題等を検証
- ・ 語る会で出された市民の意見、要望等は、一般質問や所管事務調査及び予算審査等に活用
- ・ 最終報告書を市議会ホームページに掲載
- ・ 実施概要を、しょうばら市議会だより（２／２０発行）に掲載

検証結果

- 各班から提出された報告書に基づき、本報告書作成及びアンケート結果の集約を行い、議会運営委員会・議員全員協議会にて成果、効果及び今後の課題等の検証を行った。
- 最終報告書については、市議会ホームページに掲載するのと併せ、井戸端スタイルの申込代表者及び自治振興区に送付した。
- 今年度の市民と語る会の実施結果概要について、議会広報委員会に諮り２／２０発行の市議会だよりに掲載した。（※一部、１月及び２月に実施した井戸端スタイルについては、編集に間に合わないため含めていない。）
- 市民と語る会は、意見交換を目的としたものであり、各会場で出されたご意見やご要望に対しては、議員各自の思いや判断でお答えしているため、議会としての対応は行わないが、検証の中で、委員会で取り上げるべきものと判断したものについては委員会へ諮り、また、議員個人が必要と判断した場合、一般質問や予算審査等で取り上げていくこととしており、今後も継続する。
- 委員会活動や一般質問等で取り上げた内容は、適宜、市議会ホームページや市議会だよりに掲載し公表する。

(9) その他について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・意見交換に重点を置いた内容とし、一議員としてテーマや意見交換での発言を積極的に実施した
- ・自治振興区での取り組みでは、司会役の議員がより多くの参加者が発言できるよう配慮した
- ・議会に対する意見、要望には結論を出さず、市民意見の聴取を目的とした意見交換に努めた
- ・執行者に対する意見、要望には、執行者に代わって受け付けたと取られない対応に配慮した
- ・議員派遣手続きを行った

検証結果

- できるだけ参加いただいた方が発言されやすいよう、進行に努めたが、一部の会場で、同じ方の発言が集中してしまう場面があった。
- 議会や執行者に対する意見・要望等は、そのまま受け付けるのではなく、市民の多様な意見を把握する手段として聴取に努め、今後の議員活動に反映させていくこととした。
- 市民と語る会は公務であるため、令和5年9月及び12月定例会において議員派遣手続きを行った。
- 昨年度の意見について、回答がないとの意見があったため、回答を求められたものについては、できる、できないも含め何らかの形で責任を持ちフィードバックする。
- 市の施策、議会の取り組みの説明が十分行えない場面があったため、説明・意見交換が行えるよう事前準備に努める。